

アートベース百島に対する百島住民の意識調査

(事前調査報告書)

2013年4月

広島市立大学国際学部

中島正博・金谷信子・高橋広雅・瀧俊毅

目 次

はしがき	・ ・ ・ ・ ・ 1
旧百島中学校における芸術活動に関する島民の意識調査から ～アートプロジェクトを用いた地域再生の可能性と課題～	・ ・ ・ ・ ・ 2
I. はじめに アートプロジェクト～Art Base 百島とは何か	・ ・ ・ ・ ・ 3
II. 調査地の概要	・ ・ ・ ・ ・ 5
III. アンケート調査	・ ・ ・ ・ ・ 10
IV. 考察	・ ・ ・ ・ ・ 20
V. おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 22
参考文献	・ ・ ・ ・ ・ 24
(参考表) 芸術活動に対する認知度、期待、参加・協力および寄付に関するクロス表	・ ・ ・ ・ ・ 25
資料① 旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関する意識調査の単純集計	・ ・ ・ ・ ・ 34
資料② アンケート票	・ ・ ・ ・ ・ 42
資料③ アートベース百島 オープニングにおけるヒアリングから	・ ・ ・ ・ ・ 46

はしがき

私たちは、尾道市百島町で住民の方々の意識調査を2012年10月6日から同22日にかけて行いました。本報告書はその結果を分析して纏めたものです。この意識調査を行った目的は、広島市立大学芸術学部の現代表現の柳幸典准教授と協働者が、2011年から尾道市百島町で開始したアートプロジェクトによる地域への効果を分析することです。そのプロジェクトの最大のイベントは「Art Base 百島」において、2012年11月4日から11月24日まで開催されました。そのイベントの効果を分析するために、イベントを実施する前の住民意識と実施した後の住民意識の変化を観察したいと私たちは考え、まず実施前の段階で住民に対するアンケート調査を実施し、その結果を分析し本報告書を作成しました。

この調査には多くの方々のご協力を頂きました。イベント実施会場の中心は旧百島中学校であり、尾道市の文化振興に関わることから、調査実施に際し尾道市教員委員会・教育総務部・文化振興課のご了解を得て、調査を支援して下さる百島の社会福祉協議会にアンケート調査への協力をお願いしました。アンケート調査実施に際しては質問票の内容、質問票を配布し回収する方法などについて、百島社会福祉協議会の林信樹会長の多大なご協力を頂きました。さらに質問票の配布と回収については百島町の3区長、さらに各区の多数の班長の方々のご協力を頂きました。調査実施にご協力下さいましたこれらの方々には心からお礼を申し上げます。その他、私たちの聞き取り調査のための会話に応じて下さった、住民の方々にも改めてお礼を申し上げます。

さて上記の通り今回の調査は「イベントを実施する前の住民意識」であります。所期の目的を実現するためにはイベントを「実施した後の住民意識」を調査して、イベントの事前と事後の意識変化から地域社会への影響を分析しなければなりません。私たちは二度目の意識調査をするタイミングについて考えました。その結果、地域への影響を分析するには、最初のイベントの後では地域へのインパクトはまだ小さいかもしれないと考え、2013年の二度目のイベントの後に、百島町で「事後」の意識調査をさせて頂きたいと望んでおります。すなわち今年二度目のアートイベントが行われた後になります。その際には再び住民の方々のご協力を頂きたいと念願しております。

アートプロジェクトによる地域社会への影響を研究するためには、まだ道半ばであり本報告書は所期の目標からは「中間報告書」に相当するものでありますが、本報告書に対するご意見を頂ければ幸いです。

2013年4月25日

広島市立大学国際学部 中島正博・金谷信子・高橋広雅・瀧俊毅

旧百島中学校における芸術活動に関する島民の意識調査から
～アートプロジェクトを用いた地域再生の可能性と課題～

A Consciousness Survey of Momoshima Residents Regarding Artistic Activity at Unused
Building of Junior High School:
Potentials and Issues for Community Regeneration through Art Project

In recent years, the approach called art project has been developed in different places of Japan and attracted attention from various quarters. We conducted an attitude survey of the Momoshima residents regarding a project called Art Base Momoshima, which is an artistic activity started in 2011 at Momoshima of Onomichi City. The purpose of our survey is to understand exactly about the characteristics of the local residents, since it is a prerequisite of bringing up the art project as an activity related to the community regeneration. Specifically, we asked about the residents' consciousness involved in life in general as well as their intention of cooperation and interest of the project in the survey, and clarified such issues as to what extent the local residents concern about the project, whether and how the residents will cooperate and participate in the project, and what kind of residents will be involved more actively in the project.

キーワード：アートプロジェクト、尾道市百島町、地域再生、住民参加、離島、過疎化、地域活性化、地域活動、芸術活動、人びとの交流

I. はじめに アートプロジェクト～Art Base 百島とは何か

昨今アートプロジェクトと呼ばれる取り組みが国内各地で展開され、各方面から注目されている。筆者らの研究グループは、事例調査の一つとして、尾道市百島において2011年から進められている旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動—Art Base 百島—を対象として、島民の意識調査を行った。その目的は、アートプロジェクトを地域再生に結び付ける事業として育てていくために、前提条件となる地域住民の特性を詳細に把握することである。具体的には、Art Base 百島に対する島民の関心や協力の意向のほか生活全般に関わる意識に関して質問し、地域住民が本事業にどの程度関心を有するのか、協力・参加しようとするのかしないのか、どのような形で協力・参加しようとするのか、あるいはどのような属性・価値観・交流・ネットワーク・問題意識を持つ島民が事業に積極的に関わろうとする傾向が強いのかを明らかにした。

アートプロジェクトの目的、内容、規模、運営形態は様々であり、立場により定義は多様であるが、今日のアートプロジェクトの特徴として、作品の制作・発表の場を設けるのみでなく、アートの力を社会的な課題の解決につなげようとする志向があること、またアートに関わる参加者がアーティストのみではなく鑑賞者、地域住民、行政、企業、大学などを含める形で多様化してきた事業であることが挙げられる¹。ここで取り上げられるアートは現代アートであることが多い。

内容は、関係者が手弁当で企画運営する比較的小規模な事業から、国内外の著名なアーティストを招聘して広大な場所を舞台に展開される大規模な芸術祭まで様々である。またリーダーシップもアーティスト主導型、ディレクター主導型、まちづくり関係者主導型、行政主導型、大学主導型など様々である。地域住民やボランティアが参加・協力する場も作品の制作、事業の運営、作家の滞在支援など様々であるが、関与の機会や関与の濃淡は事業により異なる。著名な事例としては「大地の芸術祭—越後妻有アートトリエンナーレ」（2000年～）、「別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』（2009年～）また「瀬戸内国際芸術祭」（2010年～）などが挙げられる。こうした事業に関心が高まっている理由としては、現代アートには社会の課題を提示したり、忘れられた可能性を発見する力があると期待されていること、さらにこうしたアートの力は人と人のつながりを取り戻したり、地域の再生を図ることが可能と期待されていることが挙げられる。

本調査が対象とするアートプロジェクトは広島県尾道市の百島において2011年から進められている旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動である。百島の概要は後述するが、人口が600人に満たない瀬戸内海の離島である。活動の拠点はArt Base 百島と名付けられている。本事業は「アーティスト柳幸典と協働者達による「半農半芸術+ちよっと漁」をコンセプトとした創作活動を通して、離島の創造的な再生を試みる私設アートセンター」と解説されている(Art Base Momoshima website)。プロデューサー・ディレクターである柳は広島市立大学芸術学部の教員であり、日本を代表する現代アート作家の一人である。2000年に開催された「瀬戸内国際芸術祭」の参加作家でもある。また本事業は広島市立大学芸術学部関係者が2006年から進めてきた「広島アートプロジェクト」の一事業でもある²。

Art Base 百島の趣旨は以下のとおり述べられている。

少年の頃から秘密基地を作り続けてきた
木の上、土の中、水の上、、、
そして
かつて海賊どもが根城とした瀬戸内海の島々に出会った
犬島「製錬所」に次ぐ離島の秘密基地
Art Base 百島
そこは
アーティスト達と協働者達による
芸術を手段ではなく目的とする
真剣な遊びの前線基地だ

ここで強調されているのは「芸術を手段ではなく目的とする」ことである。つまり大規模なアートプロジェクトでしばしば見受けられるように、まちづくりや地域再生を第一の目的として主催者やディレクターが主導してアーティストの参加や作品の選定を行うという形式とはやや異なり、アーティストが主導して芸術を第一の目的としつつ離島の活性化を図ろうとするプロジェクトと位置付けることができる。また広島市立大学芸術学部の学生・教員が多数関わっている点では、大学主導型のアートプロジェクトでもある。

本事業は瀬戸内でプロジェクト候補地を探していた柳が、尾道市百島に廃校があることを知ったことが発端である。尾道市としては、市内で唯一橋が架かっていない百島の地域活性化が長年の懸案であり、両者の合意により本事業はスタートした。2011年2月に地元島民対象に旧中学校利用構想が提示され、同6月には地域説明会を開催した。この間に百島の住民により、民家の斡旋を受け、関係者・アーティストが不定期に泊まり込みを続けながら活動拠点の整備を進めてきた。この間、地元の住民を対象にしたワークショップも数回重ねてきた。本事業に参加しているのは、趣旨に賛同した全国各地の若手アーティストである。Art Base 百島は2012年11月4日にオープンし、特別展（柳幸典×原口典之）と企画展（参加作家7名・2組）が11月24日まで開催された。作品は旧百島中学校を改装したArt Base 百島に展示されたほか、島内の防波堤、公民館、寺、旧医院を舞台に制作された。オープニングには島内外から約450名の来場者があり、Art Base 百島を始点として島内の会場を回遊する多くの観客で賑わった。

Art Base 百島では若手作家が島に住みながら作品を発表することを目標としている。またここでは、農業・漁業と芸術の協働による新たな現代アートの社会的役割を、日本の里山里海を支える離島との地域連携によって探求することも目的としている。このため関係者には百島に住民票を移した者をはじめ、滞在する作家が地域の島民に見守られながら制作活動が続けたり、島の産物の差し入れを受けるなど日常的な交流を深め、また対話を積み重ねる中で、アートを用いた地域の活性化の取り組みが進められている。

II. 調査地の概要

調査地の概要を理解しておくことは、今後の地域再生の方法を模索し、アートプロジェクトの貢献を考える前提条件である。また芸術活動に関するアンケート調査の結果を実情に即して理解するためにも、島民の居住する百島の様々な側面に関する認識は不可欠である。

1. 百島と人びとの営み

(1) 百島の位置と自然

瀬戸内海に位置する百島はその島全体が広島県尾道市百島町である。JR 尾道駅に隣接する瀬戸内海交通のターミナル尾道港から、尾道水道を通り南西方向に高速船で 20 分、フェリーで 40 分の距離に位置する。本土との位置関係を図 1 に示す。百島は面積 3.08 平方キロメートル、周囲 11.9 キロメートル、標高 184.3 メートルの十文字山を主峰とする起伏の多い土地のわずかな平野に 3 つの集落がある。島の北に福田港を擁する福田地区、その南に隣接して島の主な施設が位置する本村地区、そして島の最南部の泊地区の 3 集落からなっている。人口はこの 3 集落にほぼ均等に分布している。



図 1 百島の位置

(2) 自然景観

百島の自然の魅力は海と山である。穏やかな瀬戸内海の眺めとともに、海水浴、潮干狩り、つりなどを楽しむことができる。島の西側の海岸から眺める夕日は島の宝の一つである。人口が多かった 1960 年代には百島の山は中腹まで耕作されていたが、今では山の中腹は森林あるいは灌木林に戻っている。そのような山野の森林の変遷は過疎化が進む瀬戸内海の多くの島に共通した景観である。

(3) 歴史

Wikipedia (2013) によると「室町時代になるまで百島の歴史資料は殆ど皆無だが、菅原道真が大宰府に流される途中、百島に立ち寄り一袖残したという伝説もあり、現在百島町福田地区に天満宮がある」。また1441年（嘉吉元年）、嘉吉の乱で敗れた赤松満祐の一族が百島に逃れて住み着いて、以来追っ手の襲来に備えた弓の稽古が由来の「お弓神事」が今尚毎年1月11日に催しされている。瀬戸内海の島々は、百島を含めて村上水軍との関連が強いと言われている

宮本常一（1965:40）は『瀬戸内海の研究』において島嶼生活について「人々が小さい島にまで住もうとしたことは、その初めは政治的な重圧の外に立とうとする意欲がそうした人々の心の中に働いてのことであると見られるが…」と述べており、上記の赤松一族の史実との関連においても宮本の説は理解できる。

(4) 産業

百島の産業は農業と漁業であるが、現在の百島で、農業・漁業などの第1次産業の就業者数は最も少ない。農業は野菜（キャベツ・たまねぎ）と柑橘が中心だが規模は零細である。水産業はアサリ採貝漁業を主体に、刺し網でキス・カレイ・イカ、一本釣りでチヌ、小型底引き網でエビ・カニなどの漁業が行われている。2001年にはイチゴ栽培農家が誕生し、観光農園としても活動している³。

第2次産業として建設業があるが、百島の就業者数のほとんどは第3次産業に従事し、尾道市や沼隈町などの島外へ船で通勤している。島内には旅館などの宿泊施設はなく、レストランなどの飲食業もないが、日用雑貨などの販売を営む雑貨店が数軒存在する。

(5) 島内の諸施設

百島には公共施設をはじめ幾つかの施設が存在する。公共施設として尾道市役所・百島支所、百島公民館、百島コミュニティセンター、百島簡易郵便局、学校として百島幼小中学校がある。高校生は船で島外の高等学校に通う。2000年度に百島小学校と中学校は、広島県ではじめての小中併設校になり一貫教育が行われている。他にJA尾道市百島出張所、デイサービス・ピーチ愛ランド、(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所百島庁舎などがある。

近年百島診療所が復活した。百島では2005年以来、百島診療所が休止していたが、僻地医療を志す医師によって、2011年4月に再び百島診療所が開業したのである。現在の百島診療所の医師は小型船舶の操縦と小型飛行機の自家用操縦ができるため、小型船で近隣の島々の医療も行っており、将来は飛行艇で遠方の島々の医療活動も計画している。2013年1月には民間テレビ局により、百島住民の感謝の気持をこの医師に伝える長時間番組が全国放映された⁴。

(6) 観 光

海と山の百島には観光資源が少なからずある。百島は映画・テレビのロケ地として何度か登場している。美しい海岸線、ピクニック広場などの観光ポイントを始めとして、古い街と畑の景観は島の風情がある。その他、海水浴、潮干狩り、フルーツ狩り、キャンプ、釣り、登山ハイキング、サイクリング、神社仏閣の祭りやイベントなども、百島の観光資源である。しかし百島に飲食店や旅館⁵がなく、観光を振興するには弱点である。さらば百島に観光客を積極的に呼び込もうとする動向は現在さほど感じられない。

(7) 過疎化と高齢化の現状

百島の人口は2013年1月に569人であるが、表1に示すように昭和25年をピークにして高度経済成長期から減少傾向が続いている。年間20～30人が亡くなっており、計算上では10年間で人口が半減することになる。このように過疎化と高齢化が急激に進んでいるのが現状である。2012年の65才以上の高齢化率は65%である。過疎地域に特徴的な空き家や廃屋の存在は百島も例外ではなく、島を歩くと集落の景観に空き家や廃屋の姿を散見する。空き家の数は100戸以上あると言われている。その空き家や廃屋とともに広がる耕作放棄地はイノシシの隠れ場となり、今も農業を続ける島民に被害を与えていることが島民の悩みである⁶。

表1 百島の人口推移

年号		西暦	戸数	人口	世帯人数
文化	元年	1804	128	793	5.77
明治	5年	1872	275	1624	5.91
大正	9年	1920	363	1830	5.04
昭和	15年	1940	450	1814	4.03
	25年	1950	593	2889	4.87
	35年	1960	565	2400	4.25
	45年	1970	562	2080	3.07
	55年	1980	545	1852	2.9
平成	5年	1993	462	1038	2.25
	10年	1998	426	872	2.05
	15年	2003	389	733	1.88
	23年	2011	342	599	1.75
	25年	2013	332	569	1.71

出典：百島パンフレット、尾道市人口動態（2011）

尾道市住民基本台帳登録人口（2013）

2. 地域再生の動向

百島の過疎化・高齢化に島民は危機感を抱いている。この調査の目的は、百島で始まったアートプロジェクト⁷による地域づくりの効果を計測するために、島づくりやアートプロジェクトに関する島民の意識を事前に把握することである。従って以下に述べる島づくりの動向を紹介することが有意義であろう⁸。

第一に、挙げるべき活動は百島農園である。百島農園は過疎高齢化の危機感から2000年に生まれた、島づくりのための産業興しの活動である。百島農園は瀬戸のいちごグループとして、「いちごづくりを通して”生涯現役”での仕事の場を提供するとともに、過疎化・高齢化が進む百島の活性化の一助になればと、雇用の創出と島外からの移住者の受け入れ、島おこしなど様々な取り組みを行っていきます。」⁹との思いで農園を営んでいる。

第二に、かつての塩田が位置していた島の北側の海岸では、メガソーラーが2013年11月¹⁰の運転開始を目指している。年間の発電量は一般家庭450世帯分を見込んでおり、百島の335世帯の全電力をまかなえる発電量である¹¹。雇用も見込まれる産業として、島の将来に明るい材料を提供している。市ではこのメガソーラー施設を活用し、電気の地産地消や非常時の電力供給、IT基盤の誘致などをすすめて、環境・観光特区や医療特区と連携を図り、百島町の活性化を推進する夢を描いている¹²。

第三に、百島の島づくりには新たに改正された離島新興法が重要である。離島振興法は1953年に制定されて以来、10年ごとに改正・延長されてきた。現行法が2013年3月に末に期限切れを迎えるために改正離島振興法が2012年に成立した。同改正法はこれまでの港湾整備などのハード中心の財政支援を改め、新たに「離島活性化交付金」を創設し、妊婦の通院・出産支援や高校生の修学支援など、ソフト事業に幅広く使えるようにした。さらに地域の創意工夫を生かした離島新興を図るため、税制優遇や規則緩和などの特例を設ける「離島特区」（離島特別区域制度）も創設できる。

離島振興法の生みの親とも言われる宮本常一¹³は、「離島振興法ができたから島がよくなるのではない、島をよくしようと行動するとき離島振興法が生きてくる」という名言を残している。法律や行政に依存するのではなく、島民が主体的に島づくりに取り組む必要性を強調したのであろう¹⁴。なお宮本は1961年2月18～19日に百島を訪問して、当時の百島の景観を多くの写真に残している。

百島では過疎化高齢化対策としてUJIターンが期待されている。増える空き家を利用してUJIターンを促進すれば、人口減を緩和できるし空き家や廃屋を減らすこともできる。しかし多くの空き家の持ち主は、いつかは百島に帰る可能性を考えており、さらに家屋の中の家具や仏壇の存在も空き家を貸す有効利用を難しくさせている。また廃屋を更地にするには多額の費用がかかる。空き家利用のためにその家主と交渉することは容易ではない。

空き家対策と過疎対策は多くの市町で共通の課題であり、空き家対策条例の施行や準備が進んでいる¹⁵。尾道市ではNPOが空き家再生プロジェクト¹⁶を実施している。百島ではこれまで空き家利用の事例は百島農園のみである¹⁷。百島には空き家の持ち主と交渉して、利用を促進する主体がま

だ存在しない。百島で2012年に行われた空き家対策のワークショップ¹⁸に参加した百島住民はわずか二人であった。百島で空き家問題を抱えていながらも、住民レベルで問題解決に向けた動きはまだ活発ではないようである。空き家対策条例（中国新聞 2013）¹⁹が今後多くの市町に広まれば、それに呼応して空き家の家主と交渉してUJIターンを促進する動きが生まれる可能性があるだろう。

耕作放棄地は空き家の増加と共に増える。耕作放棄地はイノシシの隠れ家になり、イノシシによる害獣被害は耕作を続ける農家を悩ませている。地元百島の住民の中から耕作放棄地の再生に向けた動きは見られない。百島の福田港から本村地区へ向かう途中に、広大な耕作放棄地が広がっている。耕作放棄地の再生あるいは他の用途のための有効活用が望まれる。高齢化と害獣被害によって、今後さらに耕作放棄地が増え続けるだろう。



写真1 耕作放棄地（本村地区）
撮影：中島正博

比較的若い60代の年齢層の十数人を中心にした「百島活性化の会」が十年以上百島で活動している。しかし、まだ百島を活性化する力になり得ていない²⁰。その原因は過疎化が進行する現実の中で、百島の将来像を描くことが難しいからではないかと思われる。百島の将来ビジョンがなければ、それに向けた有効な活動のアイデアは生まれまいだろう。何かしなければという思いがあっても、ビジョンの実現に向けた有効な活動がなければ、結局「百島活性化の会」は手持ち無沙汰の状態にならざるを得ない。全国を覆う過疎高齢化社会の中で、将来ビジョンを描きにくいのはどこの市町でも同じである。地域レベルで町おこし・村おこしの事例は報告されている²¹。そのような様々な事例を研究して、百島に相応しいビジョンづくりが望まれる。先に言及した宮本常一が言うように地元の主体性が不可欠である。

Ⅲ. アンケート調査

1. 調査の概要

本調査は百島の島民たちがもつ「旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動」（以下、芸術活動と記述）に関する関心度や期待度を明らかにすることを目的とする。調査の実施期間は2012年9月28日から10月19日である。調査票は百島の自治会を通して、社会福祉協議会会長、区長、班長、各戸へという経路により百島に住んでいる全ての世帯（342世帯、一世帯1通）に配布された。回収部数は250通で、そのうち有効回答数は247通（全体の72.2%）であった。

調査票は主に3部構成である。第1部の芸術活動に関連する質問項目では芸術活動の認知度、回答者の芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動、そしてまちづくりや地域活性化に関する関心度、芸術活動に期待することや協力できることなどについて質問した。具体的な質問内容は次の通りである。

- あなたは旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動のことを知っているか。
- あなたは芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動に関心があるか。
- あなたは地域づくりや地域の活性化に関心があるか。
- あなたはこの芸術活動に期待しているか。期待する場合、どんなことを期待するか。
- 芸術活動で制作される作品に何を期待するか。
- この芸術活動の準備や運営に参加・協力したいと思うか。参加・協力する場合、どのような方法を希望するか。
- 芸術作品の制作に協力する場合、どのような形を希望するか。
- 仮にこの芸術活動に寄付をする場合、適当と考える金額に最も近いものはどれか。

第2部の普段の生活に関連する質問項目では回答者の感じる百島の魅力、近隣や地域の人たちとの付き合いの程度、地域で開催されるイベントの参加頻度、回答者の現在の幸福度や暮らし向き、百島での生活に対する不安などについて質問した。具体的な質問内容は次の通りである。

- 百島の魅力は何だと思うか。
- あなたと近隣・地域の人たちの付き合いはどの程度であるか。
- 普段、地域で開催されるイベントにはどの程度参加しているか。
- あなたが住んでいる集落はまとまりがあると思うか。
- おおまかに言って、たいていの人には信用できると思うか。（「とてもそう思う」を6点、「全くそう思わない」を0点として一つだけ選択）
- 今あなたはどの程度幸せであるか。（「とても幸せ」を6点、「とても不幸」を0点として一つだけ選択）
- 幸せの程度（幸福感）を考えた時に大切と思ったことは何であるか。
- あなたの幸せの程度（幸福感）を高めるために有効な手立ては何であるか。
- 現在のあなたの暮らし向きについて、どのように感じているか。
- 百島での生活に不安を感じることはあるか。あるとすれば何であるか。

第3部では回答者の性別や年齢、住んでいる集落、世帯類型（一人暮らしや夫婦のみ、核家族、三世帯同居など）、出身、百島で住んでいる期間、職業、最終学歴などの個人属性について質問した。

2. 回答者の個人属性

回答者の個人属性は表 3-1 に示されているとおりである。回答者は「女性」のほうがやや多かった（無回答の 4.5%を除く、女性 51%対男性 44.5%）。60 代以上の回答者が合計で 200 人であり、全体の 80.9%を占めた。

世帯類型は「一人暮らし」と「夫婦のみ」が最も多く、それぞれ 89 人（36.0%）と 91 人（36.8%）であった。最終学歴は、全体 247 人のうち 88 人（35.6%）が高等学校までであった。回答者の職業は無職が半数以上（59.1%）を占め最も多く、次いで農業、漁業（11.3%）であった。回答者の生まれ・暮らしに関しては、百島で生まれ、暮らしている人が 129 人（52.2%）と最も多く、次いで U ターンが 45 人（18.2%）であり、U ターンを含めて、7 割の回答者が百島で生まれている。また、66.0%の回答者は 30 年以上百島に在住している。最後に、回答者は概ね 3 つの集落（本村地区・福田地区・泊地区）にほぼ均等に分布している。

表 3-1. 回答者の個人属性（回答合計数=247）

質問	数	割合	質問	数	割合
性別			住んでいる集落		
男	110	44.5%	本村地区	69	27.9%
女	126	51.0%	福田地区	71	28.7%
無回答	11	4.5%	泊地区	98	39.7%
			無回答	9	3.6%
年齢			生まれ・暮らし		
20 代～30 代	3	1.2%	百島での生まれ・暮らし	129	52.2%
40 代～50 代	33	13.4%	百島出身だが U ターンした	45	18.2%
60 代～70 代	130	52.6%	他所の出身で移ってきた	51	20.6%
80 代以上	70	28.3%	無回答	22	8.9%
無回答	11	4.5%			
世帯			百島で住んでいる期間		
一人暮らし	89	36.0%	3 年未満	8	3.2%
夫婦のみ	91	36.8%	3 年～5 年未満	3	1.2%
核家族（夫婦と未婚の子ども）	22	8.9%	5 年～10 年未満	11	4.5%
三世帯同居	5	2.0%	10 年～20 年未満	13	5.3%
その他	28	11.3%	20 年～30 年未満	18	7.3%
無回答	12	4.9%	30 年以上	163	66.0%
			無回答	31	12.6%
職業			最終学歴		
農業、漁業	28	11.3%	高等学校まで	88	35.6%
建設業、製造業など	16	6.5%	短期大学・高等専門学校	17	6.9%
サービス業	10	4.0%	4 年制大学	15	6.1%
教員、公務員、専門職など	10	4.0%	その他	45	18.2%
無職	146	59.1%	無回答	82	33.2%
その他	18	7.3%			
無回答	19	7.7%			

3. 結果

(1) 質問に関する記述統計

第1部の芸術活動に関連する質問・回答および第2部の普段の生活に関連する質問・回答についての記述統計はそれぞれ表3-2と表3-3に示されている。

(a) 芸術活動に関連する質問について

まず、芸術活動のことを知っているかを質問した結果、「よく知っている」(10.5%)と「ある程度知っている」(46.6%)の回答の合計は全体の57.1%を占め、島民に今回の芸術活動はある程度認知されていることが分かった。また、「芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動に関心」を持つ回答者は半数程度(49.0%)であるのに対して、「地域づくりや地域の活性化に関心」を持っている回答者は71.7%で相当に多かった。

次に、「芸術活動に期待しているか」を質問した結果、「大いに期待している」(21.5%)と「ある程度期待している」(40.5%)の回答の合計は全体の62%を占め、多くの島民が今回の芸術活動に期待していることが分かった。また、表3-2に示されているように回答者の期待していることは「島の文化の再生につながる」(48.2%)、「島外の人との交流が生まれる」(47.8%)、「島内の人々の交流が深まる」(39.7%)、「島づくり活動が活発になる」(32.4%)、「島外の人々の移住が期待できる」(28.7%)、「島の文化などの資源が増える」(26.7%)、「島に経済効果が持たされる」(26.3%)の順であり、この順番から島の文化の再生や島内外の人々との交流が大いに期待されていることが分かった。そして「芸術活動で制作される作品に期待すること」については多くの回答者が「地域の歴史や伝統を反映する」(45.7%)および「マスコミ等に取り上げられる」(32.4%)といったことを挙げている。「有名な作家の参加」(22.3%)や「今までにない作品」(25.9%)という要素より、作品と地域の歴史や伝統とのつながりを強く期待していることが注目される。

さらに、「この芸術活動の準備や運営に参加・協力したいと思うか」という質問に関しては、「参加・協力したい」という回答が全体の53.0%を占め、「参加・協力したいとは思わない」という回答(26.3%)の2倍となった。また、「希望する参加・協力の方法」は「芸術活動やイベントに参加すること」(参加・協力したい回答者の80.2%)が最も多く、次いで「地元に対する協力依頼や広報」(参加・協力したい回答者の35.9%)であった。「作品の制作に協力する形」に関しては、「作家が島での生活・滞在を支援すること」(参加・協力したい回答者の51.1%)が最も多く、次いで「制作の作業に参加」(22.1%)、「制作に必要な物資を提供」(19.1%)であった。

最後に、「仮の芸術活動に対する寄付額」を質問した結果、「1000円以下」という回答(80人)が全体の約三分之一を占めて最も多かった。一方で、「寄付する気持ちはない」と「無回答」の回答がそれぞれ全体の15%と13.4%を占めた。これは島民が今回の芸術活動に(仮の)金銭的な支援に対してある程度の抵抗があることを示唆する。

表 3-2. 芸術活動に関連する質問の記述統計

質問	数	割合	質問	数	割合
芸術活動のことを承知（単一選択、N=247）			作品に期待すること（複数選択、N=247）		
よく知っている	26	10.5%	地域の歴史や伝統を反映する	113	45.7%
ある程度知っている	115	46.6%	有名な作家の参加	55	22.3%
あまり知らない	74	30.0%	今までにない作品	64	25.9%
まったく知らない	22	8.9%	マスコミ等に取り上げられる	80	32.4%
無回答	10	4.0%	その他	6	2.4%
芸術・文化活動への関心（単一選択、N=247）			活動の準備などに参加（単一選択、N=247）		
関心がある	121	49.0%	参加・協力したい	131	53.00%
関心がない	39	15.8%	参加・協力したいとは思わない	65	26.30%
わからない	71	28.7%	無回答	51	20.60%
無回答	16	6.5%	活動の準備に参加の方法（複数選択、N=131）		
地域活性化への関心（単一選択、N=247）			芸術活動やイベントに参加	105	80.2%
関心がある	177	71.70%	地元に対する協力依頼や広報	47	35.9%
関心がない	14	5.70%	芸術作品の制作に協力	13	9.9%
わからない	40	16.20%	会場の管理などの運営に協力	14	10.7%
無回答	16	6.50%	芸術活動に必要な物資を提供	18	13.7%
芸術活動への期待（単一選択、N=247）			芸術活動に必要な資金を提供	10	7.6%
大いに期待している	53	21.5%	その他	4	3.1%
ある程度期待している	100	40.5%	作品の制作に協力の形（複数選択、N=131）		
どちらともいえない	50	20.2%	制作のためのアイデアを提供	18	13.70%
あまり期待していない	17	6.9%	制作の作業に参加	29	22.10%
全く期待していない	7	2.8%	制作に必要な物資を提供	25	19.10%
無回答	20	8.1%	作家が島での生活・滞在を支援	67	51.10%
芸術活動に期待すること（複数選択、N=247）			その他	10	7.60%
島の文化の再生につながる	119	48.20%	仮の芸術活動への寄付額（単一選択、N=247）		
島の文化などの資源が増える	66	26.70%	寄付する気持ちはない	37	15.0%
島外の人との交流が生まれる	118	47.80%	1000 円以下	80	32.4%
島内の人々の交流が深まる	98	39.70%	3000 円以下	47	19.0%
島づくり活動が活発になる	80	32.40%	5000 円以下	24	9.7%
島に経済効果もたされる	65	26.30%	1 万円以下	20	8.1%
島外の人々の移住が期待できる	71	28.70%	1 万円以上	6	2.4%
その他	3	1.20%	無回答	33	13.4%

(b) 普段の生活に関連する質問について

まず、「百島の魅力」に関しては、回答者は主に「自然が豊かであること」（全体の72.1%）と「地域の人々のつながりが豊かであること」（全体の61.1%）と答えた。「回答者が住んでいる集落はまとまりがあると思うか」という質問に関しては、「大いに思う」（10.9%）と「ある程度思う」（59.5%）の回答が合計で全体の7割を超えた。

一方、近隣・地域の人たちとの付き合い程度に関しては、「会った時にあいさつする程度」の形式的な付き合い（16.6%）、「気軽に話し合えるような」部分的な付き合い（51.4%）と「何かにつけ相談したり、助け合えるような」全面的な付き合い（24.7%）であり、部分的な付き合いと全面的な付き合いが全体の7割強であった。類似の全国調査である内閣府「平成19年国民選好度調査」を参照すると、隣近所の人と「よく行き来している」人は10.3%、「ある程度行き来している」人は30.4%であり、隣近所の人に行き来がある割合は4割程度であり、百島の住民の隣近所との交流は相当に活発であるといえる。また、普段、地域で開催されるイベントにどの程度参加しているかに関しては、「積極的に参加している」（全体の10.5%）と「可能な範囲で参加している」（全体の57.9%）の回答の合計が全体の7割弱を占めた。

地域団体への参加に関しては、「自治会への参加あり」（49.0%）、「老人会への参加あり」（29.1%）、「消防団への参加あり」（13.4%）、「ボランティア団体への参加あり」（27.9%）、「文化・音楽・趣味などのサークル団体への参加あり」（21.1%）、「スポーツ・レクリエーション団体への参加あり」（15.0%）となっている。類似の全国調査である明るい選挙推進協会「第22回参議院議員通常選挙の実態調査」（2010年）を参照すると、「自治会・老人会」は35.5%、「趣味・スポーツ・サークル・団体」は13.3%、「ボランティア団体」は3.3%であり、百島の島民の地域活動は他の地域と比べて相当に活発であり、ネットワークが豊かであるといえる。

次に、回答者の信頼および幸福感の指標について、回答者の平均値がそれぞれ3.705（信頼度）と3.939（幸福感）であり、百島の島民がある程度の信頼と幸福を感じていることが分かった。そして、幸せの程度を考えた時に大切と思ったことは何であるかを質問した結果、「健康」（全体の76.9%）、「家族や友人との人間関係」（全体の60.7%）、「近隣・地域との人間関係」（全体の42.1%）、「家計（収入）」（全体の34%）といったことが多かった。また、幸せの程度を高めるために有効な手立てに関して、主に「あなた自身の努力」（全体の46.2%）、「家族の間の助け合い」（全体の65.6%）、「友人や仲間の助け合い」（全体の44.5%）という三つのことを挙げた。

最後に、「現在の暮らし向き」に関して、大半の回答者（全体の68.4%）が「普通である」と答えた。また、「百島での生活に不安を感じる」と答えた回答者は全体の四分の三ほどを占め、彼らの不安なことは主に「交通機関サービス」（54.3%）、「病気の時の医療サービス」（41.7%）、「買い物」（35.6%）であることが分かった。

表 3-3. 普段の生活に関連する質問の記述統計

質問	数	割合	質問	数	割合
百島の魅力 (複数選択、N=247)			幸せを考えた時の大切なこと (複数選択、N=247)		
自然が豊か	178	72.1%	家計 (収入)	84	34.0%
地域の人々のつながりが豊か	151	61.1%	仕事・職業	43	17.4%
街への交通の便が比較的良い	21	8.5%	健康	190	76.9%
その他	8	3.2%	趣味・余暇	60	24.3%
住んでいる集落のまとまり (単一選択、N=247)			地域貢献・社会貢献	30	12.1%
大いに思う	27	10.90%	家族や友人との人間関係	150	60.7%
ある程度思う	147	59.50%	近隣・地域との人間関係	104	42.1%
どちらともいえない	52	21.10%	その他	1	0.4%
あまり思わない	10	4.00%	幸せを高めるための手立て (複数選択、N=247)		
全く思わない	1	0.40%	あなた自身の努力	114	46.2%
無回答	10	4.00%	家族の間の助け合い	162	65.6%
地域の人々との付き合い (単一選択、N=247)			友人や仲間の助け合い	110	44.5%
形式的な付き合い	41	16.60%	社会の助け合い	41	16.6%
部分的な付き合い	127	51.40%	職場からの支援	2	0.8%
全面的な付き合い	61	24.70%	国や県・市からの支援	30	12.1%
付き合いはほとんどない	1	0.40%	現在の暮らし向き (単一選択、N=247)		
無回答	17	6.90%	余裕がある	7	2.80%
地域でのイベントの参加 (単一選択、N=247)			どちらかという余裕がある	25	10.10%
積極的に参加している	26	10.50%	普通である	169	68.40%
可能な範囲で参加している	143	57.90%	どちらかという苦しい	26	10.50%
あまり参加していない	41	16.60%	かなり苦しい	6	2.40%
全く参加していない	22	8.90%	無回答	14	5.70%
無回答	15	6.10%	百島での生活に不安 (単一選択、N=247)		
地域の団体への参加 (複数選択、N=247)			不安を感じることは特にない	41	16.60%
自治会	121	49.0%	不安を感じることもある	185	74.90%
老人会	72	29.1%	無回答	21	8.50%
消防団	33	13.4%	百島での生活に不安なこと (複数選択、N=247)		
ボランティア団体	69	27.9%	医療 (病気の時)	103	41.7%
文化・音楽・趣味等のサークル	52	21.1%	買い物	88	35.6%
スポーツ・レクリエーション団体	37	15.0%	仕事	18	7.3%
			教育	12	4.9%
			交通機関	134	54.3%
			孤独	30	12.1%
			その他	2	0.8%

(2) 相関分析

アンケート調査票での今回の芸術活動に関する「認知度」「期待」「参加・協力」「仮の寄付金額」の諸質問項目が、ほかの質問項目と関連しているか否かについて、カイ2乗検定における相関分析を行い、結果を示したのが表3-4である。相関する項目に関しては、「関心」「参加・協力」「付き合い」「ネットワーク」「信頼・幸福度」「生活・不安」「個人属性」に分類して表記している。

表 3-4 カイ2乗検定における相関分析

相関する項目	芸術活動に関する項目			
	活動の認知度	活動への期待	活動への参加・協力	仮の寄付金額
関心				
芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心	—	60.10(8)***	31.85(2)***	—
地域づくりや地域の活性化への関心	72.83(6)***	83.81(8)***	25.72(2)***	31.83(10)***
芸術活動への期待	—	—	42.32(4)***	76.49(20)***
参加・協力				
活動の準備や運営に参加・協力したいか否か	—	42.32(4)***	—	—
芸術活動への仮の寄付金額	—	76.49(20)***	—	—
付き合い				
近隣・地域の人たちとの付き合い程度	—	43.66(12)*	10.06(3)*	—
普段、地域のイベントの参加程度	47.27(9)***	45.46(12)***	17.52(3)**	25.57(15)*
住んでいる集落はまとまりがあるか否か	—	32.00(16)**	—	—
ネットワーク				
自治会に参加	9.17(3)*	15.88(4)**	18.60(1)***	13.43(5)*
老人会に参加	—	—	—	11.24(5)*
消防団に参加	—	—	7.85(1)**	—
ボランティア団体に参加	15.91(3)**	13.30(4)**	8.27(1)**	20.61(5)***
文化・音楽・趣味などのサークルに参加	—	—	—	—
スポーツ・レクリエーション団体に参加	—	12.00(4)*	—	13.84(5)*
信頼・幸福度				
回答者の信頼指標	—	39.90(24)*	—	45.51(30)*
回答者の幸福度指標	—	45.47(24)**	—	—
生活・不安				
現在の暮らし向きについての感じ	—	—	—	33.90(20)*
生活に不安を感じることはあるか否か	—	—	4.22(1)*	20.47(5)**
個人属性				
回答者がどの集落に住んでいるか	—	—	12.17(2)**	—
回答者の性別	—	—	—	13.02(5)*
回答者の年齢	—	—	—	29.91(15)*
回答者の世帯類型	—	26.92(16)*	13.46(4)**	—
回答者が百島に住んでいる期間	—	44.52(20)***	—	51.96(25)**
回答者の現在の職業	37.93(15)***	41.91(20)**	12.14(5)*	39.75(25)*

注：括弧の左の数字は chi2 値であり、括弧の中の数字は自由度である。***と**と*はそれぞれ 0.1%と 1%と 5%の有意水準で二つの項目が相関していることを示し、—は 5%の水準で二つの項目が相関していないことを示す。

(a) 認知度

回答者の芸術活動に対する認知度に関しては、カイ2乗検定の結果、彼らの「地域づくりや地域の活性化への関心」や「普段、地域のイベントに参加する程度」、「回答者の現在の職業」と関連しないという仮説がいずれも0.1%の有意水準で棄却され、また「自治会への参加」は5%、「ボランティア団体への参加」は1%の有意水準で棄却されたことから、芸術活動に対する認知度はこれらの要因と関連していることが分かった。

(b) 期待

芸術活動への期待に関しては、「芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心」や「地域づくりや地域の活性化への関心」、「芸術活動の準備や運営に参加・協力したいか否か」、「芸術活動への仮の寄付金額」、「普段、地域のイベントに参加する程度」、「回答者が百島に住んでいる期間」が0.1%の有意水準で相関を示し、「住んでいる集落はまとまりがあるか否か」、「自治会への参加」、「ボランティア団体への参加」、「回答者の幸福度指標」、「回答者の現在の職業」は1%の有意水準で、また「近隣・地域の人たちとの付き合いの程度」、「スポーツ・レクリエーション団体への参加」、「回答者の信頼指標」、「回答者の世帯類型」は5%の有意水準で相関を示し、芸術活動への期待はこれらの項目と関連していることが分かった。

芸術活動への期待が高い人々の傾向をクロス表（巻末に添付）により確認すると以下のとおりである。

- ◇ 「芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心」が高い人。「地域づくりや地域の活性化への関心」が高い人。
- ◇ 「芸術活動の準備や運営に参加・協力」に積極的な人。「芸術活動へ寄付」することに積極的な人。
- ◇ 「普段、地域のイベントに参加」することが多い人。「近隣・地域の人たちの付き合い」が活発な人。「住んでいる集落はまとまりがある」と思っている人。
- ◇ 「自治会」、「ボランティア団体」、「スポーツ・レクリエーション団体」に参加している人。
- ◇ 人に対する「信頼度」が高い人。「幸福度」が高い人。
- ◇ 世帯別では「三世帯同居」。
- ◇ 百島に住んでいる期間が比較的短い人。
- ◇ 現在の職業では「教員・公務員・専門職など」、「農業・漁業」の人。

(c) 参加・協力

芸術活動の準備や運営に参加・協力する意向に関しては、芸術活動への期待と同じように、「芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心」や「地域づくりや地域の活性化への関心」また「自治会への参加」が0.1%の有意水準で、「普段、地域のイベントに参加する程度」、「ボランティア団体への参加」、「回答者の世帯類型」が1%の有意水準で、「近隣・地域の人たちとの付き合いの程度」と「回答者の現在の職業」が5%の有意水準でそれぞれ相関することが分かった。さらに、活動への期待との間には相関が見られなかった「消防団への参加」、「生活に不安を感じることはあるか否か」、「回答者がどの集落に住んでいるか」また「回答者の最終学歴」の各項目について、芸術活動に参加・協力する意向の場合は相関することが分かった。

芸術活動に参加・協力する意向が強い人々の傾向をクロス表により確認すると以下のとおりである。

- ◇ 「芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心」が高い人。「地域づくりや地域の活性化への関心」が高い人。
- ◇ 「芸術活動に期待」している人。
- ◇ 「普段、地域のイベントに参加」することが多い人。「近隣・地域の人たちとの付き合い」が活発な人。
- ◇ 「自治会」、「ボランティア団体」、「消防団」に参加している人。
- ◇ 「生活に不安を感じることはない」人。
- ◇ 「本村地区」に住む人。
- ◇ 世帯別では「三世同居」。
- ◇ 現在の職業では「教員・公務員・専門職など」、「農業・漁業」の人。
- ◇ 最終学歴が「短期大学・高等専門学校」の人。

(d) 仮の寄付金額

今回の芸術活動への仮の寄付金額に関しては、芸術活動への期待や参加協力と同じように、「地域づくりや地域の活性化への関心」と「ボランティア団体への参加」は0.1%の有意水準で、「生活に不安を感じることはあるか否か」、「回答者が百島に住んでいる期間」また「回答者の最終学歴」は1%の有意水準で、「普段、地域のイベントに参加する程度」、「自治会への参加」、「スポーツ・レクリエーション団体への参加」、「回答者の信頼指標」、また「回答者の現在の職業」は5%の有意水準で、各々相関することが分かった。なお上記の3項目では相関が見られなかった項目では、「老人会への参加」、「現在の生活の暮らし向き」、「回答者の性別」および「回答者の年齢」といった項目と仮の寄付金額との間の相関が、新たにカイ2乗検定の結果から得られた。

寄付をより多く考えている人々の傾向をクロス表により確認すると以下のとおりである。

- ◇ 「地域づくりや地域の活性化への関心」が高い人。
- ◇ 「普段、地域のイベントに参加」することが多い人。
- ◇ 「自治会」、「ボランティア団体」、「老人会」、「スポーツ・レクリエーション団体」に参加している人。

- ◇ 「信頼度」の高い人。
- ◇ 「生活に余裕がある」と考えている人。「生活に不安を感じることはない」人。
- ◇ 性別では「男性」。
- ◇ 年齢別では「20代～30代」、「40代～50代」。
- ◇ 「百島に住んでいる期間」が比較的短い人。
- ◇ 「現在の職業」では教員・公務員・専門職などと農業・漁業の人。
- ◇ 「最終学歴」は「4年制大学」の人。

上記で得られた結果を横断的に見て、特筆されることをまとめると、以下のとおりとなる。

第一には、「地域づくりや地域の活性化への関心」および「普段、地域のイベントに参加する程度」は、「活動の認知度」、「活動への期待」、「活動への参加・協力」、「仮の寄付金額」の四項目すべてと相関しているということである。ここからは日ごろから地域の活性化に関心を持ち、地域のイベントに積極的に参加する人々が、本芸術活動についても関心・期待が高く、労務的・金銭的での支援に積極的であることが分かる。

第二には、「地域づくりや地域の活性化への関心」は「活動の認知度」、「活動への期待」、「活動への参加・協力」、「仮の寄付金額」の四項目すべてと相関しているのに対して、「芸術・文化活動への関心」は「活動への期待」と「活動への参加・協力」の二項目のみで相関するのに止まることである。ここからは、島民の芸術活動に対する期待や参加の動機としては、芸術文化というテーマよりも、地域活性化に対する関心の方が大きいことが窺える。

第三には、ネットワークに関して、「自治会への参加」および「ボランティア団体への参加」は「活動の認知度」、「活動への期待」、「活動への参加・協力」、「仮の寄付金額」の四項目すべてと相関し、また「老人会」、「消防団」、「スポーツ・レクリエーション団体」など一見芸術文化活動とは趣旨が異なる地域団体への参加も、一部の項目において相関が見られたことである²²。

第四には、「活動への期待」は「信頼指標」や「幸福度指標」と相関し、「活動への参加・協力」は「不安を感じることはあるか否か」と相関しており、また「仮の寄付金額」は「信頼指標」および「現在の暮らし向き」および「不安を感じることはあるか否か」と相関していることである。ここからは、活動に対する期待や支援・協力の意向は、回答者の日常生活に関する充足感と、ある程度関係していることが窺える。

第五には、「個人属性」に関して、「活動への期待」と「仮の寄付金額」は、百島の居住年数と相関しており、また「仮の寄付金額」は年齢と相関していることである。さらに「個人属性」では、「現在の職業」が四項目すべてと相関しており、また世帯類型と「活動への期待」と「活動への参加・協力」の二項目で相関していることである。前者については芸術活動が教員や専門職の嗜好や関心にアピールしていること、後者については百島を生活と仕事の場とする人々に地域活性化を目指す本事業はアピールしていることが予測される。三世帯同居の場合は外部とのネットワークが他の世帯と比べてより広範であることが考えられ、その相乗効果により期待や協力の意向が強まることが予測される。

IV. 考 察

本調査により明らかになったことは、まず百島の島民の「旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動」に対する認知度や、島の文化の再生や当該の人々の交流などに対する期待度はかなり高く、また芸術活動の準備や運営に参加・協力する意向も半数以上と高いことが明らかになったことである。一方、島民が希望する参加・協力の方法に関しては、芸術活動やイベントに参加という観客としての参加が主であり、芸術作品の制作に関する協力に関しては、作家の島での生活・滞在を支援するという希望が多く、芸術作品の制作に対する協力の希望は少ないことが分かった。つまり島民の芸術活動に対する期待度や活動への参加・協力の意欲は強いが、観客としての参加や作家の生活支援を主として考えており、コアとなる芸術活動への関与の希望は限定的であることが分かった。このような百島の島民の芸術活動に対する認知、期待、参加・協力、寄付の意向から、今後の芸術活動や地域活性化に関して示唆されることを現段階で述べると、以下のとおりである。

第一に、「地域づくりや地域の活性化への関心」と、芸術活動に関する「活動の認知度」、「活動への期待」、「活動への参加・協力」、「仮の寄付金額」の四項目すべてに相関があることから、今回のような地域活性化事業により多くの島民を巻き込んでいくためには、普段から島民の地域づくりや地域の活性化への関心を高める工夫が必要であることが示唆される。

第二に、「芸術・文化活動に対する関心」よりも「地域づくりや地域の活性化への関心」の方が相関の範囲が広いことから、芸術活動に関わる島民を増やすためには、芸術文化に特化した内容よりは島内外の人々の交流増加や地域活性化を優先して考慮する必要性が示唆される。また作品に期待することとして、最多は「地域の歴史や伝統を反映すること」であったことから、地域へのこだわりを優先する必要性が示唆される。

第三に、「活動への期待」と「活動への参加・協力」の二つの項目に相関があるということからは、芸術活動の準備や運営に参加・協力することにより活動への期待が高まるという関係と、芸術活動への期待があるからこそ、活動の準備や運営に参加・協力するという双方向の関係が考えられる。

第四に、「普段、地域のイベントに参加する程度」は、「活動の認知度」、「活動への期待」、「活動への参加・協力」、「仮の寄付金額」の四項目すべてと相関しているということ、また「近隣・地域の人たちの付き合い」が「活動への期待」および「活動への参加・協力」と相関することからは、本芸術活動のような地域活性化事業においては、日常的な地域の人々の交流が基礎的条件として必要であることが窺われる。また島民の期待や自主的参加を高めるためには、多くの住民が参加できるイベントをなるべく頻繁に企画することが重要であることが示唆される。他方、事業の主催者に対しては、日常的に住民との交流を多く持つキーパーソンとつながることの重要性を示唆しているといえる。

第五に、「自治会への参加」と「ボランティア団体への参加」は、「活動の認知度」、「活動への期待」、「活動への参加・協力」、「仮の寄付金額」の四項目すべてと相関しているということからは、慣習として参加する地縁系の活動も、自発的な意思で参加する地域活動も、ともに芸術活動に対する期待や参加・協力などを向上させるためには重要であることを示唆している。また「消防団への参加」と「活

動への参加・協力」との間および「老人会への参加」と「仮の寄付金額」との間に相関があることから、団体の参加者の特性に応じて、労務的支援と金銭的支援の異なる志向があることが予測される。なお地域団体のうち芸術活動に最も関連すると考えられる「文化・音楽・趣味のサークル団体」については上記の4項目と相関するものがなく、「スポーツ・レクリエーション団体」など一見芸術活動とは趣旨が異なる地域団体については相関が見られたことは興味深い結果であるが、その詳細な分析は今後の課題としたい。

第六に、「信頼指標」および「幸福度指標」と、「活動への期待」と「仮の寄付金額」の間に相関があり、また「生活に対する不安」の少なさや「暮らし向き」のよさと「活動の参加・協力」また「仮の寄付金額」の間に相関があることから、今回のような芸術活動による地域活性化事業に住民の積極的な参加を期待する前提として、生活が安定しており不安がなく、人々に対する信頼度や幸福度がある程度高いというような、物心両面で充足した生活環境が重要であることが示唆される。単純集計結果によると、島民の間には交通機関や医療などに対する不安があり、芸術活動のみで地域再生を期待することには様々なハードルがあることも予測される。

なお金銭的な支援である「仮の寄付金額」は、「ネットワーク」、「信頼・幸福度」また「生活・不安」の様々な要因と関連する可能性があるのに対して、労務的な支援である「活動への参加・協力」はこうした影響が限定的であるという対比が注目されるが、その詳細な分析も今後の課題としたい。

第七に、「個人属性」に関して、「活動への期待」と「仮の寄付金額」は、百島の居住年数が短いことと相関しており、また「仮の寄付金額」は年齢の低さと相関していることを先に述べたが、このことは高齢化・過疎化が進む百島を何とか変えていこうとする意欲が新住民や若年層の方が比較的高いという、島の将来を考える上で非常に重要な知見を得たことになる。単純集計結果では、百島の島民の多くは「地域の人々のつながりが豊かであること」（全体の61.1%）を誇りに思っていると回答している。また前述のとおり、百島の島民の近隣・地域の人たちとの付き合い程度は他の地域より相当活発であり、地域団体の参加でみたネットワークもより活発である。これらの結果と、第四や第五で示した日常的な人々の交流やつながりの豊かさが地域活性化事業を進めるうえでは重要という結果を合わせて考えると、百島には過疎化・高齢化を超えて地域活性化を進めていくための潜在的な人材が相当にあるといえそうである。

最後に、相関分析の結果の解釈について以下の注意が必要であることを付記しておく。一般的に相関分析の結果は、あくまでも二つの要因（例えば、要因Aと要因B）が互いに関連があることのみを意味し、この二つの要因の間にある因果関係（例えば、要因Aが要因Bの原因あるいは要因Bが要因Aの原因）を意味しない。しかしながら、明らかに要因Bが要因Aの原因であることが理論上または常識上考えにくいならば、要因Aが要因Bの原因であると考えでもよい。したがって、上記の相関分析の結果からの因果関係に関する記述は、筆者たちが相関する二つの質問項目の因果関係を想定した上で得られた解釈で、これらの因果関係が本当に成立するか否かに関しては、回帰分析等の手法を用いて検証するのが望ましいと思われる。そのため、今後続ける課題として、これらの因果関係を厳密に検証していきたい。

V. おわりに

本稿は「旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関するアンケート調査」の相関分析の結果を紹介した。その結果、「芸術活動の認知度」、「芸術活動への期待」、「芸術活動の準備や運営に参加・協力したいか否か」といった項目が「地域づくりや地域の活性化への関心」と相関することが分かった。このことは、アートプロジェクトが住民に認知され、また住民が積極的に参加するためには、島民の地域づくりや地域の活性化への関心を高める必要があることを示唆している。

一方で、「芸術活動の認知度」、「芸術活動への期待」、「芸術活動の準備や運営に参加・協力したいか否か」に加えて「芸術活動への仮の寄付金額」は、回答者の個人的な事情や社会・経済的特性と相関があることも分かった。ただしこれについては、今後より詳細な分析を進めていく必要がある。

今後の課題としては、まず回帰分析等の手法を用いるなどして変数間の因果関係や影響の程度をより厳密に分析していくことが挙げられる。さらに、アートプロジェクトが地域や地域住民に及ぼす長期的な影響について分析していく必要があるかもしれない。今回のアンケート調査は地域住民とアートプロジェクトの関係を短期的な視点から分析するために行われたものであが、それは地域やその住民に長期的な影響を与える可能性もある。それを考慮に入れないことは、アートプロジェクトの重要な側面を無視することにもつながる。

謝 辞

本研究は、文部科学省の科学研究補助金基盤研究C（課題名「瀬戸内芸術祭の外発的インパクトと内発的発展：文化・社会・経済面からの持続的検証」課題番号 23530675）より援助を受けた、記して感謝する。また、本研究のアンケート調査において、百島社会福祉協議会の林信樹会長からアドバイスおよび協力をいただいた。ここに謝意を記す。

<注>

¹ 参考文献として樋口（2011）、加治屋（2009, 2010）、北川（2005, 2010）、長畑・枝廣（2010）、野田（2011）、住まい・まちづくり担い手支援機構（2011）など。

² その目的は「広島に居住、来訪する、もしくは広島に関心を持つ一般市民、青少年、アーティスト、団体に対して、展覧会、ワーク ショップ、講演会、イベントの実施などを通して、国際交流を含む、現代美術を中心とした文化芸術の振興に関する事業、広島の歴史に関する教育普及活動、都市空間のデザインに関する事業を行い、文化芸術の振興、国際平和の実現、および共生社会の推進に寄与すること」と述べられている（広島アートプロジェクト website）。

³ 広島県離島振興計画（http://opac.pref.hiroshima.jp/documents/rdd/iso_isl_promo_h15_h24.pdf）

⁴ フジテレビの番組「おじゃマップ」によって2013年1月16日に放映された。

⁵ 百島には宿泊施設や飲食業が存在しないが、百島農園の収納体験用の宿泊施設を一般利用することは可能である。

⁶ 第Ⅱ章のアンケート結果の自由記述にはイノシシ被害に関する問題が述べられている。

⁷ 広島市立大学芸術学部現代表現の活動である。

⁸ この他にも活性化に向けた動きはあると思われるが、ヒアリングによって筆者が知りえたことを記述する。

⁹ 百島農園（<http://momoshima-nouen.com/>）のサイトによる。

¹⁰ 2013年3月時点での進捗状況。

¹¹ 中国新聞2012年6月9日の報道による。

¹² エフエムおのみち：<http://www.fmo.co.jp/2012/06/08-170900.php>

¹³ 山口県周防大島出身の民俗学者（1907年～1981年）であり、1954年に全国離島振興協議会の初代事務局長を務めた。

¹⁴ 宮本常一（1907年～1981年）は周防大島生まれの民俗学者である。

¹⁵ 中国新聞2013年2月10日は、中国地方で17市町が空き家対策の施行と準備を進めていることを報じている。中でも山口県では9市がすでに施行しあるいは施行が決定している。

¹⁶ 2009年10月よりNPO法人尾道空き家再生プロジェクトが、尾道市と協働で新たに「尾道市空き家バンク」をスタートさせることになった。（<http://www.onomichisaisei.com/>）

¹⁷ 広島市立大学芸術学部現代表現のグループがアートプロジェクト実施のために、空き家を活用している事例はあるが、移住を目的としたものではない。

¹⁸ 2012年11月18日に広島市立大学芸術学部現代表現のアートベースが、空き家と耕作放棄地対策のためのワークショップを企画したが、百島住民の参加者は2人のみで、他は本土の若い人達であった。

¹⁹ 中国新聞2013年2月10日の記事によれば、老朽化した空き家の所有者に改修、撤去を求める「空き家対策条例」を導入する動向が中国地方で17市町に達している。

²⁰ アートベースの立ち上げ時には旧百島中学校周辺の草刈りをした。

²¹ 例えば離島の例では隠岐諸島の一つの海士町や瀬戸内海兵庫県の家島の事例がある。海士町では総人口（2012年8月に2,331人）の2割がUターンとIターンの人びとで占められるに至った。Iターンのグループの著作『僕たちは島で、未来を見ることにした』からは、若者のIターンの動機や彼らが島の文化を学ぶ過程などが窺えて大変興味深い。

²² なお本調査では、各団体への参加の程度（「積極的」、「つきあいで」あるいは「名前だけ」）も質問したため、有意な相関関係があった12の項目間についてカイ二乗検定を行ったところほとんどの項目間で相関は確認されなかった。有意であったのは、「認知度とボランティア団体の参加程度」（ $\chi^2=11.24$ （自由度4）、値=0.024）および「仮の寄付金額と自治会の参加程度」（ $\chi^2=30.16$ （自由度10）、値=0.001）

のみであった。

参考文献

- 阿部裕志・信岡良亮. 2012. 『僕たちは島で、未来を見ることにした』 木楽舎
- 明るい選挙推進協会. 2011. 「第 22 回参議院議員通常選挙の実態—調査結果の概要—」(H22 年 7 月時点) .
- Art Base Momoshima website. n.d. <http://artbasemomoshima.jp/> (2013/03/01).
- 中国新聞. 2013. 「空き家対策条例広がる」(2012 年 2 月 10 日)
- 樋口貞幸. 2011. 「市民イニシアチブによるアート振興」都市研究プラザグローバル COE 文化創造ユニット『地域の声を結ぶアート—アジア・アーツマネジメント会議 3』水曜社.
- 広島アートプロジェクト website. n.d.
<http://www.hiroshima-ap.jpn.org/web/news.html> (2013/03/01).
- 広島県. 2003. 「広島県離島振興計画(平成 15 年度～24 年度)」.
(http://opac.pref.hiroshima.jp/documents/rdd/iso_isl_promo_h15_h24.pdf)
- 加治屋健司. 2010. 「日本のアートプロジェクト その歴史と近年の展開」柳幸典・加治屋健司・岡本芳枝・今井みはる・古堅太郎・鹿田 義彦『広島アートプロジェクト 2009 「吉宝丸」』広島アートプロジェクト実行委員会, pp. 261-271.
- 加治屋健司. 2009. 「アートプロジェクトと日本—アートのアーキテクチャを考える」柳幸典・村田真・加治屋健司・岩崎貴宏・齋藤彩佳『広島アートプロジェクト 2008』広島アートプロジェクト実行委員会, pp. 129-135.
- 北川フラム. 2005. 『希望の美術・協働の夢 北川フラムの 40 年 1965—2004』角川書店.
- 北川フラム. 2010. 「文化・芸術による地域づくり—越後妻有アートトリエンナーレと瀬戸内国際芸術祭を巡って—」『地域社会学年報』, vol. 22, pp. 11-29.
- 長畑実・枝廣可奈子. 2010. 「現代アートを活用した地域の再生・創造に関する研究 - 直島アートプロジェクトを事例として—」『大学教育』vol. 7, pp. 131-143.
- 宮本常市. 1965. 『瀬戸内海の研究』 未来社.
- 内閣府. 2007. 「平成 18 年度内閣府選好度調査」内閣府国民生活局.
- 野田邦弘. 2011. 「現代アートと地域再生—サイト・スペシフィックな芸術活動による地域の変容」『文化経済学』vol. 8, no. 1, pp. 47-56.
- 尾道市. 2012. 「尾道市統計人口」
(<http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/www/service/detail.jsp?id=4607>)
- 尾道市. 2013 「尾道市住民基本台帳登録人口平成 25 年 1 月」
(<http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/www/service/detail.jsp?id=4607>)
- 住まい・まちづくり担い手支援機構. 2011. 「地域の住まい・まちづくり活動研究(アートプロジェクト編①)」.

(参考表)

芸術活動に対する認知度、期待、参加・協力および寄付に関するクロス表

○芸術活動の認知度と各関連項目のクロス集計

	関心がある		関心がない		分からない		合計	
よく知っている	26	(14.7%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	26	(11.3%)
ある程度知っている	99	(55.9%)	4	(28.6%)	10	(25.0%)	113	(48.9%)
あまり知らない	47	(26.6%)	2	(14.3%)	21	(52.5%)	70	(30.3%)
全く知らない	5	(2.8%)	8	(57.1%)	9	(22.5%)	22	(9.5%)
合計	177	(100.0%)	14	(100.0%)	40	(100.0%)	231	(100.0%)

a. 認知度と地域づくりや地域の活性化への関心

	積極的に参加している		可能な範囲で参加している		あまり参加していない		全く参加していない		合計	
よく知っている	10	(38.5%)	13	(9.4%)	3	(7.7%)	0	(0.0%)	26	(11.6%)
ある程度知っている	11	(42.3%)	77	(55.8%)	17	(43.6%)	6	(27.3%)	111	(49.3%)
あまり知らない	4	(15.4%)	41	(29.7%)	13	(33.3%)	8	(36.4%)	66	(29.3%)
全く知らない	1	(3.8%)	7	(5.1%)	6	(15.4%)	8	(36.4%)	22	(9.8%)
合計	26	(100.0%)	138	(100.0%)	39	(100.0%)	22	(100.0%)	225	(100.0%)

b. 認知度と普段地域のイベントの参加程度

	農業・漁業		建設業・製造業など		サービス業		教員・公務員・専門職など		無職		その他		合計	
よく知っている	5	(18.5%)	2	(13.3%)	2	(20.0%)	6	(60.0%)	8	(5.6%)	3	(16.7%)	26	(11.7%)
ある程度知っている	15	(55.6%)	10	(66.7%)	5	(50.0%)	1	(10.0%)	68	(47.6%)	10	(55.6%)	109	(48.9%)
あまり知らない	5	(18.5%)	2	(13.3%)	2	(20.0%)	3	(30.0%)	51	(35.7%)	4	(22.2%)	67	(30.0%)
全く知らない	2	(7.4%)	1	(6.7%)	1	(10.0%)	0	(0.0%)	16	(11.2%)	1	(5.6%)	21	(9.4%)
合計	27	(100.0%)	15	(100.0%)	10	(100.0%)	10	(100.0%)	143	(100.0%)	18	(100.0%)	223	(100.0%)

c. 認知度と回答者の職業

	自治会不参加		自治会参加		合計	
よく知っている	5	(7.2%)	18	(15.0%)	23	(12.2%)
ある程度知っている	31	(44.9%)	67	(55.8%)	98	(51.9%)
あまり知らない	23	(33.3%)	29	(24.2%)	52	(27.5%)
全く知らない	10	(14.5%)	6	(5.0%)	16	(8.5%)
合計	69	(100.0%)	120	(100.0%)	189	(100.0%)

d. 認知度と自治会への参加

	ボランティア団体不参加		ボランティア団体参加		合計	
よく知っている	8	(7.2%)	15	(22.1%)	23	(12.8%)
ある程度知っている	59	(53.2%)	34	(50.0%)	93	(52.0%)
あまり知らない	30	(27.0%)	19	(27.9%)	49	(27.4%)
全く知らない	14	(12.6%)	0	(0.0%)	14	(7.8%)
合計	111	(100.0%)	68	(100.0%)	179	(100.0%)

e. 認知度とボランティア団体への参加

	積極的に		つきあいとして		名前だけ		合計	
よく知っている	7	(25.0%)	2	(9.1%)	1	(50.0%)	10	(19.2%)
ある程度知っている	17	(60.7%)	8	(36.4%)	1	(50.0%)	26	(50.0%)
あまり知らない	4	(14.3%)	12	(54.5%)	0	(0.0%)	16	(30.8%)
合計	28	(100.0%)	22	(100.0%)	2	(100.0%)	52	(100.0%)

f. 認知度とボランティア団体への参加の程度

○芸術活動への期待と各関連項目のクロス集計表

	関心がある		関心がない		分からない		合計	
大いに期待している	40	(34.2%)	2	(5.1%)	9	(13.8%)	51	(23.1%)
ある程度期待している	60	(51.3%)	12	(30.8%)	25	(38.5%)	97	(43.9%)
どちらともいえない	12	(10.3%)	15	(38.5%)	23	(35.4%)	50	(22.6%)
あまり期待していない	5	(4.3%)	4	(10.3%)	7	(10.8%)	16	(7.2%)
全く期待していない	0	(0.0%)	6	(15.4%)	1	(1.5%)	7	(3.2%)
合計	117	(100.0%)	39	(100.0%)	65	(100.0%)	221	(100.0%)

a. 期待と芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心

	関心がある		関心がない		分からない		合計	
大いに期待している	50	(29.2%)	1	(7.1%)	1	(2.7%)	52	(23.4%)
ある程度期待している	89	(52.0%)	1	(7.1%)	6	(16.2%)	96	(43.2%)
どちらともいえない	24	(14.0%)	7	(50.0%)	19	(51.4%)	50	(22.5%)
あまり期待していない	6	(3.5%)	2	(14.3%)	9	(24.3%)	17	(7.7%)
全く期待していない	2	(1.2%)	3	(21.4%)	2	(5.4%)	7	(3.2%)
合計	171	(100.0%)	14	(100.0%)	37	(100.0%)	222	(100.0%)

b. 期待と地域づくりや地域の活性化への関心

	参加・協力したい		参加・協力したいとは思わない		合計	
大いに期待している	43	(33.9%)	3	(4.8%)	46	(24.2%)
ある程度期待している	60	(47.2%)	21	(33.3%)	81	(42.6%)
どちらともいえない	18	(14.2%)	23	(36.5%)	41	(21.6%)
あまり期待していない	5	(3.9%)	11	(17.5%)	16	(8.4%)
全く期待していない	1	(0.8%)	5	(7.9%)	6	(3.2%)
合計	127	(100.0%)	63	(100.0%)	190	(100.0%)

c. 期待と活動の準備や運営に協力したいか否か

	寄付する気持ちはない		1000円以下		3000円以下		5000円以下		1万円以下		1万円以上		合計	
大いに期待している	3	(8.3%)	14	(18.2%)	12	(27.9%)	9	(39.1%)	5	(26.3%)	6	(100.0%)	49	(24.0%)
ある程度期待している	7	(19.4%)	37	(48.1%)	22	(51.2%)	11	(47.8%)	14	(73.7%)	0	(0.0%)	91	(44.6%)
どちらともいえない	14	(38.9%)	19	(24.7%)	8	(18.6%)	3	(13.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	44	(21.6%)
あまり期待していない	7	(19.4%)	6	(7.8%)	1	(2.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	14	(6.9%)
全く期待していない	5	(13.9%)	1	(1.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	6	(2.9%)
合計	36	(100.0%)	77	(100.0%)	43	(100.0%)	23	(100.0%)	19	(100.0%)	6	(100.0%)	204	(100.0%)

d. 期待と芸術活動への仮の寄付金額

	会ったときにあいさつする程度の付き合い(形式的)		気軽に話し合えるような付き合い(部分的)		何かにつけ相談したり、助け合えるような付き合い(全面的)		付き合いはほとんどない		合計	
大いに期待している	11	(28.2%)	23	(19.2%)	15	(25.9%)	0	(0.0%)	49	(22.5%)
ある程度期待している	11	(28.2%)	58	(48.3%)	29	(50.0%)	0	(0.0%)	98	(45.0%)
どちらともいえない	11	(28.2%)	29	(24.2%)	7	(12.1%)	0	(0.0%)	47	(21.6%)
あまり期待していない	6	(15.4%)	6	(5.0%)	5	(8.6%)	0	(0.0%)	17	(7.8%)
全く期待していない	0	(0.0%)	4	(3.3%)	2	(3.4%)	1	(100.0%)	7	(3.2%)
合計	39	(100.0%)	120	(100.0%)	58	(100.0%)	1	(100.0%)	218	(100.0%)

e. 期待と近隣・地域の人たちの付き合い程度

	積極的に参加している		可能な範囲で参加している		あまり参加していない		全く参加していない		合計	
大いに期待している	13	(56.5%)	29	(21.5%)	7	(17.5%)	2	(10.0%)	51	(23.4%)
ある程度期待している	8	(34.8%)	69	(51.1%)	15	(37.5%)	3	(15.0%)	95	(43.6%)
どちらともいえない	2	(8.7%)	27	(20.0%)	12	(30.0%)	7	(35.0%)	48	(22.0%)
あまり期待していない	0	(0.0%)	8	(5.9%)	4	(10.0%)	5	(25.0%)	17	(7.8%)
全く期待していない	0	(0.0%)	2	(1.5%)	2	(5.0%)	3	(15.0%)	7	(3.2%)
合計	23	(100.0%)	135	(100.0%)	40	(100.0%)	20	(100.0%)	218	(100.0%)

f. 期待と普段地域のイベントの参加程度

	大いに思う		ある程度思う		どちらともいえない		あまり思わない		全く思わない		合計	
大いに期待している	9	(36.0%)	28	(20.6%)	9	(18.0%)	5	(55.6%)	0	(0.0%)	51	(23.1%)
ある程度期待している	11	(44.0%)	68	(50.0%)	18	(36.0%)	1	(11.1%)	0	(0.0%)	98	(44.3%)
どちらともいえない	3	(12.0%)	29	(21.3%)	14	(28.0%)	2	(22.2%)	0	(0.0%)	48	(21.7%)
あまり期待していない	2	(8.0%)	7	(5.1%)	7	(14.0%)	0	(0.0%)	1	(100.0%)	17	(7.7%)
全く期待していない	0	(0.0%)	4	(2.9%)	2	(4.0%)	1	(11.1%)	0	(0.0%)	7	(3.2%)
合計	25	(100.0%)	136	(100.0%)	50	(100.0%)	9	(100.0%)	1	(100.0%)	221	(100.0%)

g. 期待と住んでいる集落はまとまりがあるか否か

	自治会不参加		自治会参加		合計	
大いに期待している	12	(17.9%)	31	(26.5%)	43	(23.4%)
ある程度期待している	22	(32.8%)	61	(52.1%)	83	(45.1%)
どちらともいえない	21	(31.3%)	18	(15.4%)	39	(21.2%)
あまり期待していない	9	(13.4%)	5	(4.3%)	14	(7.6%)
全く期待していない	3	(4.5%)	2	(1.7%)	5	(2.7%)
合計	67	(100.0%)	117	(100.0%)	184	(100.0%)

h. 期待と自治会への参加

	ボランティア団体不参加		ボランティア団体参加		合計	
大いに期待している	19	(17.6%)	15	(23.1%)	34	(19.7%)
ある程度期待している	43	(39.8%)	39	(60.0%)	82	(47.4%)
どちらともいえない	31	(28.7%)	7	(10.8%)	38	(22.0%)
あまり期待していない	12	(11.1%)	2	(3.1%)	14	(8.1%)
全く期待していない	3	(2.8%)	2	(3.1%)	5	(2.9%)
合計	108	(100.0%)	65	(100.0%)	173	(100.0%)

i. 期待とボランティア団体への参加

	スポーツ等団体不参加		スポーツ等団体参加		合計	
大いに期待している	23	(16.9%)	13	(38.2%)	36	(21.2%)
ある程度期待している	61	(44.9%)	17	(50.0%)	78	(45.9%)
どちらともいえない	34	(25.0%)	3	(8.8%)	37	(21.8%)
あまり期待していない	12	(8.8%)	1	(2.9%)	13	(7.6%)
全く期待していない	6	(4.4%)		(0.0%)	6	(3.5%)
合計	136	(100.0%)	34	(100.0%)	170	(100.0%)

j. 期待とスポーツ・レクリエーション団体への参加

○芸術活動への期待と各関連項目のクロス集計表

	0 (信頼しない)		1		2		3		4		5		6 (信頼する)		合計	
大いに期待している	0	(0.0%)	1	(16.7%)	5	(20.8%)	13	(18.1%)	13	(29.5%)	10	(25.6%)	6	(27.3%)	48	(22.9%)
ある程度期待している	0	(0.0%)	1	(16.7%)	10	(41.7%)	35	(48.6%)	18	(40.9%)	22	(56.4%)	8	(36.4%)	94	(44.8%)
どちらともいえない	1	(33.3%)	4	(66.7%)	3	(12.5%)	17	(23.6%)	11	(25.0%)	3	(7.7%)	7	(31.8%)	46	(21.9%)
あまり期待していない	1	(33.3%)	0	(0.0%)	4	(16.7%)	6	(8.3%)	1	(2.3%)	3	(7.7%)	1	(4.5%)	16	(7.6%)
全く期待していない	1	(33.3%)	0	(0.0%)	2	(8.3%)	1	(1.4%)	1	(2.3%)	1	(2.6%)	0	(0.0%)	6	(2.9%)
合計	3	(100.0%)	6	(100.0%)	24	(100.0%)	72	(100.0%)	44	(100.0%)	39	(100.0%)	22	(100.0%)	210	(100.0%)

k. 期待と回答者の信頼指標

	0 (とても不幸)		1		2		3		4		5		6 (とても幸せ)		合計	
大いに期待している	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(20.0%)	12	(17.9%)	11	(26.2%)	16	(28.6%)	7	(25.9%)	48	(22.6%)
ある程度期待している	0	(0.0%)	2	(25.0%)	0	(0.0%)	35	(52.2%)	17	(40.5%)	26	(46.4%)	15	(55.6%)	95	(44.8%)
どちらともいえない	1	(50.0%)	3	(37.5%)	4	(40.0%)	15	(22.4%)	11	(26.2%)	9	(16.1%)	4	(14.8%)	47	(22.2%)
あまり期待していない	1	(50.0%)	2	(25.0%)	4	(40.0%)	3	(4.5%)	2	(4.8%)	4	(7.1%)	0	(0.0%)	16	(7.5%)
全く期待していない	0	(0.0%)	1	(12.5%)	0	(0.0%)	2	(3.0%)	1	(2.4%)	1	(1.8%)	1	(3.7%)	6	(2.8%)
合計	2	(100.0%)	8	(100.0%)	10	(100.0%)	67	(100.0%)	42	(100.0%)	56	(100.0%)	27	(100.0%)	212	(100.0%)

1. 期待と回答者の幸福度指標

	一人暮らし		夫婦のみ		核家族		三世帯同居		その他		合計	
大いに期待している	15	(18.5%)	19	(22.4%)	5	(22.7%)	1	(20.0%)	10	(35.7%)	50	(22.6%)
ある程度期待している	27	(33.3%)	47	(55.3%)	9	(40.9%)	3	(60.0%)	12	(42.9%)	98	(44.3%)
どちらともいえない	25	(30.9%)	15	(17.6%)	7	(31.8%)	1	(20.0%)	1	(3.6%)	49	(22.2%)
あまり期待していない	9	(11.1%)	4	(4.7%)	1	(4.5%)		(0.0%)	3	(10.7%)	17	(7.7%)
全く期待していない	5	(6.2%)		(0.0%)		(0.0%)		(0.0%)	2	(7.1%)	7	(3.2%)
合計	81	(100.0%)	85	(100.0%)	22	(100.0%)	5	(100.0%)	28	(100.0%)	221	(100.0%)

m. 期待と回答者の世帯類型

	3年未満		3年～5年未満		5年～10年未満		10年～20年未満		20年～30年未満		30年以上		合計	
大いに期待している	5	(71.4%)	0	(0.0%)	2	(18.2%)	4	(30.8%)	5	(31.3%)	27	(17.6%)	43	(21.2%)
ある程度期待している	1	(14.3%)	2	(66.7%)	6	(54.5%)	3	(23.1%)	4	(25.0%)	76	(49.7%)	92	(45.3%)
どちらともいえない	1	(14.3%)	0	(0.0%)	3	(27.3%)	3	(23.1%)	1	(6.3%)	37	(24.2%)	45	(22.2%)
あまり期待していない	0	(0.0%)	1	(33.3%)	0	(0.0%)	2	(15.4%)	6	(37.5%)	8	(5.2%)	17	(8.4%)
全く期待していない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(7.7%)	0	(0.0%)	5	(3.3%)	6	(3.0%)
合計	7	(100.0%)	3	(100.0%)	11	(100.0%)	13	(100.0%)	16	(100.0%)	153	(100.0%)	203	(100.0%)

n. 期待と回答者が百島に住んでいる期間

	農業・漁業		建設業・製造業 など		サービス業		教員・公務員・ 専門職など		無職		その他		合計	
大いに期待している	10	(38.5%)	4	(26.7%)	1	(11.1%)	5	(50.0%)	21	(15.4%)	6	(35.3%)	47	(22.1%)
ある程度期待している	11	(42.3%)	4	(26.7%)	1	(11.1%)	5	(50.0%)	69	(50.7%)	7	(41.2%)	97	(45.5%)
どちらともいえない	3	(11.5%)	4	(26.7%)	2	(22.2%)	0	(0.0%)	32	(23.5%)	4	(23.5%)	45	(21.1%)
あまり期待していない	2	(7.7%)	2	(13.3%)	3	(33.3%)	0	(0.0%)	10	(7.4%)	0	(0.0%)	17	(8.0%)
全く期待していない	0	(0.0%)	1	(6.7%)	2	(22.2%)	0	(0.0%)	4	(2.9%)	0	(0.0%)	7	(3.3%)
合計	26	(100.0%)	15	(100.0%)	9	(100.0%)	10	(100.0%)	136	(100.0%)	17	(100.0%)	213	(100.0%)

o. 期待と回答者の職業

○芸術活動の準備や運営への参加・協力と各関連項目のクロス集計表

	関心がある		関心がない		分からない		合計	
参加・協力したい	89	(83.2%)	12	(36.4%)	27	(51.9%)	128	(66.7%)
参加・協力したいとは思わない	18	(16.8%)	21	(63.6%)	25	(48.1%)	64	(33.3%)
合計	107	(100.0%)	33	(100.0%)	52	(100.0%)	192	(100.0%)

a. 参加・協力と芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動への関心

	関心がある		関心がない		分からない		合計	
参加・協力したい	112	(76.7%)	4	(28.6%)	13	(40.6%)	129	(67.2%)
参加・協力したいとは思わない	34	(23.3%)	10	(71.4%)	19	(59.4%)	63	(32.8%)
合計	146	(100.0%)	14	(100.0%)	32	(100.0%)	192	(100.0%)

b. 参加・協力と地域づくりや地域の活性化への関心

	会ったときにあいさつする程度の付き合い(形式的)		気軽に話し合えるような付き合い(部分的)		何かにつけ相談したり、助け合えるような付き合い(全面的)		付き合いはほとんどない		合計	
参加・協力したい	19	(54.3%)	67	(63.8%)	41	(82.0%)	0	(0.0%)	127	(66.5%)
参加・協力したいとは思わない	16	(45.7%)	38	(36.2%)	9	(18.0%)	1	(100.0%)	64	(33.5%)
合計	35	(100.0%)	105	(100.0%)	50	(100.0%)	1	(100.0%)	191	(100.0%)

c. 参加・協力と近隣・地域の人たちの付き合い程度

	積極的に参加している		可能な範囲で参加している		あまり参加していない		全く参加していない		合計	
参加・協力したい	18	(90.0%)	82	(68.3%)	23	(63.9%)	4	(25.0%)	127	(66.1%)
参加・協力したいとは思わない	2	(10.0%)	38	(31.7%)	13	(36.1%)	12	(75.0%)	65	(33.9%)
合計	20	(100.0%)	120	(100.0%)	36	(100.0%)	16	(100.0%)	192	(100.0%)

d. 参加・協力と普段地域のイベントの参加程度

	自治会不参加		自治会参加		合計	
参加・協力したい	27	(45.8%)	82	(78.8%)	109	(66.9%)
参加・協力したいとは思わない	32	(54.2%)	22	(21.2%)	54	(33.1%)
合計	59	(100.0%)	104	(100.0%)	163	(100.0%)

e. 参加・協力と自治会への参加

	消防団不参加		消防団参加		合計	
参加・協力したい	70	(58.3%)	25	(86.2%)	95	(63.8%)
参加・協力したいとは思わない	50	(41.7%)	4	(13.8%)	54	(36.2%)
合計	120	(100.0%)	29	(100.0%)	149	(100.0%)

f. 参加・協力と消防団への参加

	ボランティア団体不参加		ボランティア団体参加		合計	
参加・協力したい	51	(54.3%)	47	(77.0%)	98	(63.2%)
参加・協力したいとは思わない	43	(45.7%)	14	(23.0%)	57	(36.8%)
合計	94	(100.0%)	61	(100.0%)	155	(100.0%)

g. 参加・協力とボランティア団体への参加

	不安を感じることは特にない		不安を感じることはある		合計	
参加・協力したい	30	(81.1%)	95	(63.3%)	125	(66.8%)
参加・協力したいとは思わない	7	(18.9%)	55	(36.7%)	62	(33.2%)
合計	37	(100.0%)	150	(100.0%)	187	(100.0%)

h. 参加・協力と生活に不安を感じることはあるか否か

○芸術活動の準備や運営への参加・協力と各関連項目のクロス集計表

	本村地区		福田地区		泊地区		合計	
参加・協力したい	44	(83.0%)	41	(69.5%)	44	(54.3%)	129	(66.8%)
参加・協力したいとは思わない	9	(17.0%)	18	(30.5%)	37	(45.7%)	64	(33.2%)
合計	53	(100.0%)	59	(100.0%)	81	(100.0%)	193	(100.0%)

i. 参加・協力と回答者がどの集落に住んでいるか

	一人暮らし		夫婦のみ		核家族		三世帯同居		その他		合計	
参加・協力したい	33	(51.6%)	54	(72.0%)	14	(63.6%)	5	(100.0%)	21	(84.0%)	127	(66.5%)
参加・協力したいとは思わない	31	(48.4%)	21	(28.0%)	8	(36.4%)	0	(0.0%)	4	(16.0%)	64	(33.5%)
合計	64	(100.0%)	75	(100.0%)	22	(100.0%)	5	(100.0%)	25	(100.0%)	191	(100.0%)

j. 参加・協力と回答者がどなたとお住まいであるか

	農業・漁業		建設業・製造業 など		サービス業		教員・公務員・ 専門職など		無職		その他		合計	
参加・協力したい	21	(87.5%)	10	(76.9%)	6	(60.0%)	9	(100.0%)	69	(60.5%)	10	(62.5%)	125	(67.2%)
参加・協力したいとは思わない	3	(12.5%)	3	(23.1%)	4	(40.0%)	0	(0.0%)	45	(39.5%)	6	(37.5%)	61	(32.8%)
合計	24	(100.0%)	13	(100.0%)	10	(100.0%)	9	(100.0%)	114	(100.0%)	16	(100.0%)	186	(100.0%)

k. 参加・協力と回答者の職業

	高等学校まで		短期大学・高等 専門学校		4年制大学 (旧制高等学校 も含む)		その他		合計	
参加・協力したい	56	(72.7%)	15	(93.8%)	11	(84.6%)	20	(54.1%)	102	(71.3%)
参加・協力したいとは思わない	21	(27.3%)	1	(6.3%)	2	(15.4%)	17	(45.9%)	41	(28.7%)
合計	77	(100.0%)	16	(100.0%)	13	(100.0%)	37	(100.0%)	143	(100.0%)

l. 参加・協力と回答者の最終学歴

○芸術活動への仮の寄付金額と各関連項目のクロス集計表

	関心がある		関心がない		分からない		合計	
寄付する気持ちはない	19	(11.9%)	3	(21.4%)	15	(45.5%)	37	(18.0%)
1000円以下	54	(34.0%)	8	(57.1%)	13	(39.4%)	75	(36.4%)
3000円以下	40	(25.2%)	2	(14.3%)	4	(12.1%)	46	(22.3%)
5000円以下	21	(13.2%)	1	(7.1%)	1	(3.0%)	23	(11.2%)
1万円以下	19	(11.9%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	19	(9.2%)
1万円以上	6	(3.8%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	6	(2.9%)
合計	159	(100.0%)	14	(100.0%)	33	(100.0%)	206	(100.0%)

a. 寄付金額と地域づくりや地域の活性化への関心

	積極的に参加している		可能な範囲で参加している		あまり参加していない		全く参加していない		合計	
寄付する気持ちはない	2	(8.7%)	19	(14.5%)	9	(25.7%)	7	(38.9%)	37	(17.9%)
1000円以下	6	(26.1%)	47	(35.9%)	16	(45.7%)	7	(38.9%)	76	(36.7%)
3000円以下	7	(30.4%)	34	(26.0%)	3	(8.6%)	2	(11.1%)	46	(22.2%)
5000円以下	4	(17.4%)	12	(9.2%)	5	(14.3%)	1	(5.6%)	22	(10.6%)
1万円以下	2	(8.7%)	17	(13.0%)	1	(2.9%)	0	(0.0%)	20	(9.7%)
1万円以上	2	(8.7%)	2	(1.5%)	1	(2.9%)	1	(5.6%)	6	(2.9%)
合計	23	(100.0%)	131	(100.0%)	35	(100.0%)	18	(100.0%)	207	(100.0%)

b. 寄付金額と普段地域のイベントの参加程度

	自治会不参加		自治会参加		合計	
寄付する気持ちはない	19	(30.2%)	15	(13.5%)	34	(19.5%)
1000円以下	24	(38.1%)	34	(30.6%)	58	(33.3%)
3000円以下	11	(17.5%)	29	(26.1%)	40	(23.0%)
5000円以下	5	(7.9%)	14	(12.6%)	19	(10.9%)
1万円以下	2	(3.2%)	16	(14.4%)	18	(10.3%)
1万円以上	2	(3.2%)	3	(2.7%)	5	(2.9%)
合計	63	(100.0%)	111	(100.0%)	174	(100.0%)

c. 寄付と自治会への参加

	積極的に		つきあいとして		名前だけ		合計	
寄付する気持ちはない	1	(2.6%)	9	(18.0%)	1	(33.3%)	11	(12.0%)
1000円以下	5	(12.8%)	21	(42.0%)	1	(33.3%)	27	(29.3%)
3000円以下	9	(23.1%)	14	(28.0%)	1	(33.3%)	24	(26.1%)
5000円以下	10	(25.6%)	3	(6.0%)		(0.0%)	13	(14.1%)
1万円以下	12	(30.8%)	2	(4.0%)		(0.0%)	14	(15.2%)
1万円以上	2	(5.1%)	1	(2.0%)		(0.0%)	3	(3.3%)
合計	39	(100.0%)	50	(100.0%)	3	(100.0%)	92	(100.0%)

d. 寄付と自治会への参加の程度

	老人会不参加		老人会参加		合計	
寄付する気持ちはない	31	(26.5%)	4	(6.2%)	35	(19.2%)
1000円以下	40	(34.2%)	28	(43.1%)	68	(37.4%)
3000円以下	23	(19.7%)	17	(26.2%)	40	(22.0%)
5000円以下	11	(9.4%)	8	(12.3%)	19	(10.4%)
1万円以下	10	(8.5%)	7	(10.8%)	17	(9.3%)
1万円以上	2	(1.7%)	1	(1.5%)	3	(1.6%)
合計	117	(100.0%)	65	(100.0%)	182	(100.0%)

e. 寄付と老人会への参加

○芸術活動への仮の寄付金額と各関連項目のクロス集計表

	ボランティア団体不参加	ボランティア団体参加	合計
寄付する気持ちはない	27 (26.0%)	7 (10.9%)	34 (20.2%)
1000円以下	40 (38.5%)	19 (29.7%)	59 (35.1%)
3000円以下	22 (21.2%)	17 (26.6%)	39 (23.2%)
5000円以下	12 (11.5%)	7 (10.9%)	19 (11.3%)
1万円以下	3 (2.9%)	10 (15.6%)	13 (7.7%)
1万円以上	(0.0%)	4 (6.3%)	4 (2.4%)
合計	104 (100.0%)	64 (100.0%)	168 (100.0%)

f. 寄付とボランティア団体への参加

	スポーツ等団体不参加	スポーツ等団体参加	合計
寄付する気持ちはない	31 (23.5%)	3 (8.6%)	34 (20.4%)
1000円以下	50 (37.9%)	11 (31.4%)	61 (36.5%)
3000円以下	29 (22.0%)	8 (22.9%)	37 (22.2%)
5000円以下	12 (9.1%)	4 (11.4%)	16 (9.6%)
1万円以下	9 (6.8%)	6 (17.1%)	15 (9.0%)
1万円以上	1 (0.8%)	3 (8.6%)	4 (2.4%)
合計	132 (100.0%)	35 (100.0%)	167 (100.0%)

g. 寄付とスポーツ・レクリエーション団体への参加

	0 (信頼しない)	1	2	3	4	5	6 (信頼する)	合計
寄付する気持ちはない	0 (0.0%)	3 (50.0%)	3 (13.6%)	16 (24.2%)	6 (13.6%)	2 (5.0%)	5 (25.0%)	35 (17.4%)
1000円以下	3 (100.0%)	1 (16.7%)	15 (68.2%)	22 (33.3%)	16 (36.4%)	11 (27.5%)	4 (20.0%)	72 (35.8%)
3000円以下	0 (0.0%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	11 (16.7%)	14 (31.8%)	15 (37.5%)	4 (20.0%)	46 (22.9%)
5000円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	6 (9.1%)	5 (11.4%)	5 (12.5%)	4 (20.0%)	23 (11.4%)
1万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	8 (12.1%)	3 (6.8%)	6 (15.0%)	2 (10.0%)	20 (10.0%)
1万円以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)	1 (5.0%)	5 (2.5%)
合計	3 (100.0%)	6 (100.0%)	22 (100.0%)	66 (100.0%)	44 (100.0%)	40 (100.0%)	20 (100.0%)	201 (100.0%)

h. 寄付金額と回答者の信頼指標

	余裕がある	どちらかという と余裕がある	普通である	どちらかという と苦しい	かなり苦しい	合計
寄付する気持ちはない	2 (28.6%)	2 (8.3%)	23 (15.5%)	8 (38.1%)	2 (33.3%)	37 (18.0%)
1000円以下	2 (28.6%)	6 (25.0%)	56 (37.8%)	9 (42.9%)	3 (50.0%)	76 (36.9%)
3000円以下	0 (0.0%)	6 (25.0%)	38 (25.7%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	46 (22.3%)
5000円以下	2 (28.6%)	4 (16.7%)	17 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (11.2%)
1万円以下	0 (0.0%)	6 (25.0%)	11 (7.4%)	1 (4.8%)	1 (16.7%)	19 (9.2%)
1万円以上	1 (14.3%)	0 (0.0%)	3 (2.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	5 (2.4%)
合計	7 (100.0%)	24 (100.0%)	148 (100.0%)	21 (100.0%)	6 (100.0%)	206 (100.0%)

i. 寄付金額と現在の暮らし向きについての感じ

	不安を感じることは特 にない	不安を感じるこ とがある	合計
寄付する気持ちはない	6 (16.2%)	31 (18.9%)	37 (18.4%)
1000円以下	9 (24.3%)	67 (40.9%)	76 (37.8%)
3000円以下	9 (24.3%)	35 (21.3%)	44 (21.9%)
5000円以下	3 (8.1%)	17 (10.4%)	20 (10.0%)
1万円以下	5 (13.5%)	13 (7.9%)	18 (9.0%)
1万円以上	5 (13.5%)	1 (0.6%)	6 (3.0%)
合計	37 (100.0%)	164 (100.0%)	201 (100.0%)

j. 寄付金額と生活に不安を感じることはあるか否か

	男性		女性		合計	
寄付する気持ちはない	19	(19.4%)	17	(15.5%)	36	(17.3%)
1000円以下	31	(31.6%)	47	(42.7%)	78	(37.5%)
3000円以下	16	(16.3%)	30	(27.3%)	46	(22.1%)
5000円以下	14	(14.3%)	9	(8.2%)	23	(11.1%)
1万円以下	14	(14.3%)	5	(4.5%)	19	(9.1%)
1万円以上	4	(4.1%)	2	(1.8%)	6	(2.9%)
合計	98	(100.0%)	110	(100.0%)	208	(100.0%)

k. 寄付金額と回答者の性別

	20代～30代		40代～50代		60代～70代		80代以上		合計	
寄付する気持ちはない	0	(0.0%)	7	(21.9%)	19	(16.2%)	11	(20.0%)	37	(17.9%)
1000円以下	0	(0.0%)	11	(34.4%)	45	(38.5%)	21	(38.2%)	77	(37.2%)
3000円以下	1	(33.3%)	6	(18.8%)	28	(23.9%)	11	(20.0%)	46	(22.2%)
5000円以下	0	(0.0%)	3	(9.4%)	13	(11.1%)	7	(12.7%)	23	(11.1%)
1万円以下	1	(33.3%)	1	(3.1%)	11	(9.4%)	5	(9.1%)	18	(8.7%)
1万円以上	1	(33.3%)	4	(12.5%)	1	(0.9%)	0	(0.0%)	6	(2.9%)
合計	3	(100.0%)	32	(100.0%)	117	(100.0%)	55	(100.0%)	207	(100.0%)

l. 寄付金額と回答者の年齢

	3年未満		3年～5年未満		5年～10年未満		10年～20年未満		20年～30年未満		30年以上		合計	
寄付する気持ちはない	1	(12.5%)	0	(0.0%)	1	(9.1%)	2	(18.2%)	4	(23.5%)	25	(17.2%)	33	(16.9%)
1000円以下	3	(37.5%)	1	(33.3%)	1	(9.1%)	6	(54.5%)	8	(47.1%)	52	(35.9%)	71	(36.4%)
3000円以下	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(27.3%)	2	(18.2%)	2	(11.8%)	38	(26.2%)	45	(23.1%)
5000円以下	2	(25.0%)	0	(0.0%)	4	(36.4%)	1	(9.1%)	2	(11.8%)	14	(9.7%)	23	(11.8%)
1万円以下	0	(0.0%)	2	(66.7%)	2	(18.2%)	0	(0.0%)	1	(5.9%)	14	(9.7%)	19	(9.7%)
1万円以上	2	(25.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.4%)	4	(2.1%)
合計	8	(100.0%)	3	(100.0%)	11	(100.0%)	11	(100.0%)	17	(100.0%)	145	(100.0%)	195	(100.0%)

m. 寄付金額と回答者が百島に住んでいる期間

	農業・漁業		建設業・製造業 など		サービス業		教員・公務員・ 専門職など		無職		その他		合計	
寄付する気持ちはない	1	(4.2%)	1	(6.7%)	3	(37.5%)	2	(22.2%)	26	(19.7%)	2	(11.8%)	35	(17.1%)
1000円以下	7	(29.2%)	7	(46.7%)	2	(25.0%)	2	(22.2%)	52	(39.4%)	7	(41.2%)	77	(37.6%)
3000円以下	8	(33.3%)	2	(13.3%)	1	(12.5%)	2	(22.2%)	29	(22.0%)	3	(17.6%)	45	(22.0%)
5000円以下	2	(8.3%)	1	(6.7%)	0	(0.0%)	2	(22.2%)	16	(12.1%)	2	(11.8%)	23	(11.2%)
1万円以下	4	(16.7%)	1	(6.7%)	2	(25.0%)	1	(11.1%)	9	(6.8%)	2	(11.8%)	19	(9.3%)
1万円以上	2	(8.3%)	3	(20.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(5.9%)	6	(2.9%)
合計	24	(100.0%)	15	(100.0%)	8	(100.0%)	9	(100.0%)	132	(100.0%)	17	(100.0%)	205	(100.0%)

n. 寄付金額と回答者の職業

	高等学校まで		短期大学・高等 専門学校		4年制大学 (旧制高等学校 も含む)		その他		合計	
寄付する気持ちはない	9	(10.8%)	4	(25.0%)	2	(15.4%)	4	(9.5%)	19	(12.3%)
1000円以下	29	(34.9%)	6	(37.5%)	1	(7.7%)	19	(45.2%)	55	(35.7%)
3000円以下	19	(22.9%)	2	(12.5%)	3	(23.1%)	12	(28.6%)	36	(23.4%)
5000円以下	17	(20.5%)	0	(0.0%)	1	(7.7%)	4	(9.5%)	22	(14.3%)
1万円以下	5	(6.0%)	3	(18.8%)	6	(46.2%)	2	(4.8%)	16	(10.4%)
1万円以上	4	(4.8%)	1	(6.3%)	0	(0.0%)	1	(2.4%)	6	(3.9%)
合計	83	(100.0%)	16	(100.0%)	13	(100.0%)	42	(100.0%)	154	(100.0%)

o. 寄付金額と回答者の最終学歴

資料①

旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関する意識調査の単純集計

【調査概要】

調査実施期間：2012年9月28日－10月19日

配布部数：342通（一世帯1通）

回収部数：250通（有効回答数247通）

回収率：73.1%（有効回収率72.2%）

問1 あなたは旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動のことを知っていますか。

	回答数	パーセンテージ
よく知っている	26	10.5%
ある程度知っている	115	46.6%
あまり知らない	74	30.0%
まったく知らない	22	8.9%
無回答	10	4.0%
合計	247	100.0%

問2 あなたは芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動に関心がありますか。

	回答数	パーセンテージ
関心がある	121	49.0%
関心がない	39	15.8%
わからない	71	28.7%
無回答	16	6.5%
合計	247	100.0%

問3 あなたは地域づくりや地域の活性化に関心がありますか。

	回答数	パーセンテージ
関心がある	177	71.7%
関心がない	14	5.7%
わからない	40	16.2%
無回答	16	6.5%
合計	247	100.0%

問4 百島の魅力は何だと思えますか。(あてはまるものにすべて○)

	回答数	パーセンテージ
自然が豊かであること	178	72.1%
地域の人々のつながりが豊かであること	151	61.1%
街への交通の便が比較的良いこと	21	8.5%
その他	8	3.2%

問5 あなたはこの芸術活動に期待していますか。

	回答数	パーセンテージ
大いに期待している	53	21.5%
ある程度期待している	100	40.5%
どちらともいえない	50	20.2%
あまり期待していない	17	6.9%
全く期待していない	7	2.8%
無回答	20	8.1%
合計	247	100.0%

問6 この芸術活動にどんなことを期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答数	パーセンテージ
島の文化の再発見・再生につながる事	119	48.2%
島の文化や芸術の資源が増えること	66	26.7%
島外の人たちとの交流がうまれること	118	47.8%
島内の人々の交流が深まること	98	39.7%
住民による島づくり活動が活発になること	80	32.4%
島に経済効果(雇用や特産品販売など)がもたされること	65	26.3%
島外の人々の移住が期待できること	71	28.7%
その他	3	1.2%

問7 芸術活動で制作される作品に何を期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答数	パーセンテージ
地域の歴史や伝統を反映していること	113	45.7%
有名な作家の参加(著名性・芸術性)	55	22.3%
今までにない作品(新規性・独創性)	64	25.9%
マスコミ等に取り上げられること(話題性)	80	32.4%
その他	6	2.4%

問8 この芸術活動の準備や運営に参加・協力したいと思いますか。参加・協力する場合、どのような方法を希望しますか。

	回答数	パーセンテージ
参加・協力したい	131	53.0%
参加・協力したいとは思わない	65	26.3%
無回答	51	20.6%
合計	247	100.0%

参加・協力したい方法	回答数	パーセンテージ
芸術活動を見に行ったりイベントに参加する	105	80.2%
地元に対する協力依頼や広報の面で協力する	47	35.9%
芸術作品の制作に協力する	13	9.9%
会場の管理などの運営に協力する	14	10.7%
芸術活動に必要な物資を提供する	18	13.7%
芸術活動に必要な資金を提供する	10	7.6%
その他	4	3.1%

問9 芸術作品の制作に協力する場合、どのような形を希望しますか。(あてはまるものにすべて○)

	回答数	パーセンテージ
制作のためのアイデアを提供する	18	7.3%
制作の作業に参加する	29	11.7%
制作に必要な物資を提供する	25	10.1%
作家が島で生活・滞在することを支援する	67	27.1%
その他	10	4.0%

問10 仮にこの芸術活動に寄付をする場合、あなたが適当と考える金額に最も近いものを次から選び一つだけ○をつけてください。

	回答数	パーセンテージ
寄付する気持ちはない	37	15.0%
1000 円以下	80	32.4%
3000 円以下	47	19.0%
5000 円以下	24	9.7%
1 万円以下	20	8.1%
1 万円以上	6	2.4%
無回答	33	13.4%
合計	247	100.0%

問11 あなたと近隣・地域の人たちのおつきあいはどの程度ですか。

	回答数	パーセンテージ
会ったときにあいさつする程度のつきあい（形式的）	41	16.6%
気軽に話し合えるようなつきあい（部分的）	127	51.4%
何かにつけ相談したり助け合えるようなつきあい（全面的）	61	24.7%
つきあいはほとんどない	1	0.4%
無回答	17	6.9%
合計	247	100.0%

問12 あなたは下記の地域の活動に参加していますか。また参加がある場合は、その程度について「2. あり」の下の中から1つ選んで○をして下さい。

	なし	あり	参加程度		
			積極的に	つきあいとして	名前だけ
自治会	69	121	43	52	4
老人会	124	72	19	26	2
消防団	138	33	16	9	2
ボランティア団体	112	69	28	22	3
サークル団体	131	52	18	15	2
スポーツなど団体	142	37	12	16	2

問13 あなたは自治会役員や民生委員などの地域の世話人の経験がありますか。現在の役職を含めてお答えください。

	回答数	パーセンテージ
自治会役員の経験がある	70	28.3%
民生委員の経験がある	3	1.2%
自治会役員や民生委員の経験はない	123	49.8%
無回答	51	20.6%
合計	247	100.0%

問14 普段、地域で開催されるイベントにはどの程度参加していますか。

	回答数	パーセンテージ
積極的に参加している	26	10.5%
可能な範囲で参加している	143	57.9%
あまり参加していない	41	16.6%
全く参加していない	22	8.9%
無回答	15	6.1%
合計	247	100.0%

問15 あなたが住んでいる集落はまとまりがあると思いますか。

	回答数	パーセンテージ
大いに思う	27	10.9%
ある程度思う	147	59.5%
どちらともいえない	52	21.1%
あまり思わない	10	4.0%
全く思わない	1	0.4%
無回答	10	4.0%
合計	247	100.0%

問16 おおまかに言って、たいていの人は信用できると思いますか。「とてもそう思う」を6点、「全くそう思わない」を0点とすると、何点くらいになると思うか、次の数字に1つだけ○をつけてください。

全くそう思わない 0点 1 2 3 4 5 6点 とてもそう思う

	0	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
回答	3	7	24	76	47	43	24	23	247
%	1.2%	2.8%	9.7%	30.8%	19.0%	17.4%	9.7%	9.3%	100.0%

問17 今あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を6点、「とても不幸」を0点とすると何点くらいになると思うか、次の数字に1つだけ○をつけてください。

とても不幸 0点 1 2 3 4 5 6点 とても幸せ

	0	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
回答	2	9	11	72	47	61	27	18	247
%	0.8%	3.6%	4.5%	29.1%	19.0%	24.7%	10.9%	7.3%	100.0%

問18 幸せの程度（幸福感）を考えた時に大切と思ったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	回答数	パーセンテージ
家計（収入）	84	34.0%
仕事・職業	43	17.4%
健康	190	76.9%
趣味・余暇	60	24.3%
地域貢献・社会貢献	30	12.1%
家族や友人との人間関係	150	60.7%
近隣・地域との人間関係	104	42.1%
その他	1	0.4%

問19 あなたの幸せの程度（幸福感）を高めるために有効な手立ては何ですか。（あてはまると思うものに2つまで○）

	回答数	パーセンテージ
あなた自身の努力	114	46.2%
家族の間の助け合い	162	65.6%
友人や仲間の助け合い	110	44.5%
社会（地域・ボランティア等）の助け合い	41	16.6%
職場からの支援	2	0.8%
国や県・市からの支援	30	12.1%

問20 現在のあなたの暮らし向きについて、どのように感じていますか。

	回答数	パーセンテージ
余裕がある	7	2.8%
どちらかという余裕がある	25	10.1%
普通である	169	68.4%
どちらかという苦しい	26	10.5%
かなり苦しい	6	2.4%
無回答	14	5.7%
合計	247	100.0%

問21 百島での生活に不安を感じることはありますか。あるとすれば何ですか。

	回答数	パーセンテージ
不安を感じることは特にない	41	16.6%
不安を感じることもある	185	74.9%
無回答	21	8.5%
合計	247	100.0%

不安を感じること	回答数	パーセンテージ
医療（病気の時）	103	41.7%
買い物	88	35.6%
仕事	18	7.3%
教育	12	4.9%
交通機関	134	54.3%
孤独	30	12.1%
その他	2	0.8%

問22 百島がどんな地域になることがあなたの理想ですか。自由にお書きください。

問23 最後にあなたご自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別は

	回答数	パーセンテージ
男	110	44.5%
女	126	51.0%
無回答	11	4.5%
合計	247	100.0%

(2) あなたの年齢は

	回答数	パーセンテージ
20代～30代	3	1.2%
40代～50代	33	13.4%
60代～70代	130	52.6%
80代以上	70	28.3%
無回答	11	4.5%
合計	247	100.0%

(3) あなたはどの集落に住んでいますか。

	回答数	パーセンテージ
本村地区	69	27.9%
福田地区	71	28.7%
泊地区	98	39.7%
無回答	9	3.6%
合計	247	100.0%

(4) あなたは現在、どなたとお住まいですか。

	回答数	パーセンテージ
一人暮らし	89	36.0%
夫婦のみ	91	36.8%
核家族（夫婦と未婚の子ども）	22	8.9%
三世帯同居	5	2.0%
その他	28	11.3%
無回答	12	4.9%
合計	247	100.0%

(5) あなたは百島のご出身ですか。それとも他所から移られてきた方ですか。

	回答数	パーセンテージ
百島で生まれずっと暮らしている	129	52.2%
百島出身だがUターンした	45	18.2%
他所の出身で移ってきた	51	20.6%
無回答	22	8.9%
合計	247	100.0%

資料②

旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関する アンケート調査ご協力のお願い

皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在、広島市立大学国際学部では文科省の補助金を得て、地域活性化の事例を研究しています。その一つとして旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関する意識調査を実施させていただくことになりました。本調査には尾道市教育委員会および百島社会福祉協議会の承諾を得ています。芸術活動については別添の新聞記事をご覧ください。

皆様からの回答は統計処理した上で集計データとして分析し、学術研究目的のみに使用します。個人が特定できる形で結果が明らかになることは一切ありません。なお調査結果は報告書にまとめ自治会にお渡しする予定です。学会等での発表も予定しています。なお、百島での芸術活動と本調査の実施者は異なることを申し添えさせていただきます。

お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

広島市立大学国際学部

中島 正博 金谷 信子

高橋 広雅 瀧 俊毅

※なお本アンケートにご不明な点がある場合は、下記までお問合せください。

〒731 - 3194

広島県広島市安佐南区大塚東 3-4-1 広島市立大学国際学部

担当者：瀧 俊毅（シン シュンキ）

電話（国際学部分室）：082-830-1505（月曜日-金曜日、10時-17時）

ファックス（同上）：082-830-1657

E-mail：shen@intl.hiroshima-cu.ac.jp

旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関する意識調査

問1 あなたは旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動のことを知っていますか。

1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

問2 あなたは芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動に関心がありますか。 1. 関心がある 2. 関心が少ない 3. わからない

問3 あなたは地域づくりや地域の活性化に関心がありますか。 1. 関心がある 2. 関心が少ない 3. わからない

問4 百島の魅力は何だと思いますか。 (あてはまるものすべてに○)

1. 自然が豊かであること 2. 地域の人々のつながりが豊かであること 3. 街への交通の便が比較的良いこと
4. その他 (具体的に:)

問5 あなたはこの芸術活動に期待していますか。

1. 大いに期待している → 問6へ 2. ある程度期待している → 問6へ 3. どちらともいえない → 問7へ
4. あまり期待していない → 問7へ 5. 全く期待していない → 問7へ

問6 この芸術活動でどんなことを期待しますか。 (あてはまるものすべてに○)

1. 島の文化の再発見・再生につながる事 2. 島の文化や芸術の資源が増えること
3. 島外の人たちとの交流が生まれること 4. 島内の人々の交流が深まること
5. 住民による島づくり活動が活発になること 6. 島に経済効果 (雇用や特産品販売など) がもたされること
7. 島外の人々の移住が期待できること 8. その他 (具体的に:)

問7 芸術活動で制作される作品に何を期待しますか。 (あてはまるものすべてに○)

1. 地域の歴史や伝統を反映していること 2. 有名な作家の参加 (著名性・芸術性)
3. 今までこない作品 (新規性・独創性) 4. マスコミ等に持ち上げられること (課題性)
5. その他 (具体的に:)

問8 この芸術活動の準備や運営に参加・協力したいと思いますか。参加・協力する場合、どのような方法を希望しますか。

1. 参加・協力したい → 具体的にどのような方法を希望しますか (あてはまるものすべてに○)

- (1) 芸術活動を見に行ったりイベントに参加する (2) 地元に対する協力依頼や広報の面で協力する
(3) 芸術作品の制作に協力する (4) 会場の管理などの運営に協力する (5) 芸術活動に必要な物資を提供する
(6) 芸術活動に必要な資金を提供する (7) その他 (具体的に:)

2. 参加・協力したいとは思わない

問9 芸術作品の制作に協力する場合、どのような形を希望しますか。 (あてはまるものすべてに○)

1. 制作のためのアイデアを提供する 2. 制作の作業に参加する 3. 制作に必要な物資を提供する
4. 作家が島で生活・滞在することを支援する 5. その他 (具体的に:)

問10 仮にこの芸術活動に寄付をする場合、あなたが適当と考える金額に最も近いものを次から選び一つだけ○をつけてください。 なおこの質問は経済学の調査手法の一つで、実際に寄付をお願いすることは決してありません。

1. 寄付する気持ちはない 2. 1000円以下 3. 3000円以下 4. 5000円以下 5. 1万円以下 6. 1万円以上

問20 現在のあなたの暮らし向きについて、どのように感じていますか。

1. 余裕がある
2. どちらかという余裕がある
3. 普通である
4. どちらかという苦しい
5. かなり苦しい

問21 百島での生活に不安を感じることはありますか。あるとすれば何ですか。

1. 不安を感じることは特にない
2. 不安を感じることもある 具体的にはどのような不安ですか。(あてはまるものすべてに○)
 - (1) 医療(病気の時)
 - (2) 買い物
 - (3) 仕事
 - (4) 教育
 - (5) 交通機関
 - (6) 孤独
 - (7) その他(具体的に:)

問22 百島がどんな地域になることがあなたの理想ですか。自由にお書きください。

()

問23 最後にあなたご自身のことについておたずねします。

- (1) あなたの性別は
 1. 男
 2. 女
- (2) あなたの年齢は
 1. 20代~30代
 2. 40代~50代
 3. 60代~70代
 4. 80代以上
- (3) あなたはどの集落に住んでいますか。
 1. 本村地区
 2. 福田地区
 3. 泊地区
- (4) あなたは現在、どなたとお住まいですか。
 1. 一人暮らし
 2. 夫婦のみ
 3. 核家族(夫婦と未婚の子ども)
 4. 三世帯同居
 5. その他(具体的に:)
- (5) あなたは百島のご出身ですか。それとも他所から移られてきた方ですか。
 1. 百島で生まれずっと暮らしている → 問(7)へ
 2. 百島出身だがUターンした → 問(6)へ
 3. 他所の出身で移ってきた → 問(6)へ
- (6) 百島に来る以前の場所はどちらかというと地方部もしくは都市部でしたか。
 1. 地方部
 2. 都市部
- (7) 百島で住んでいる期間はどの位ですか。(Uターンの方は合計で)
 1. 3年未満
 2. 3年~5年未満
 3. 5年~10年未満
 4. 10年~20年未満
 5. 20年~30年未満
 6. 30年以上
- (8) あなたの現在のご職業は
 1. 農業、漁業
 2. 建設業、製造業など
 3. サービス業(飲食店、販売業ほか)
 4. 教員、公務員、専門職など
 5. 無職
 6. その他(具体的に:)
- (9) 仕事の場所は島内ですか島外ですか。
 1. 島内
 2. 島外
- (10) さしつかえなければ、あなたの最終学歴をお教えてください。
 1. 高等学校まで
 2. 短期大学・高等専門学校
 3. 4年制大学(旧制高等学校も含む)
 4. その他(具体的に:)
- (11) 本調査またはアートプロジェクトについて、ご意見あれば自由にお書きください。

()

以上、ご協力ありがとうございました

資料③

アートベース百島 オープニングにおけるヒアリングから

本研究会では、アートベース百島のオープニング・イベントに際して、終了後、住民有志にヒアリングを行った。参集いただいたのは百島社会福祉協議会林会長の呼びかけに応じてくれた約 10 名の住民である。ヒアリングでは、アートベースおよびオープニングに対する感想、開設までの作家との交流および住民側の支援、観客の特徴、現代アートに対する反応、百島での生活、意見・提案、今後の期待などについて自由に語っていただいた。

詳細は以下のとおりであるが、旧百島中学校が現代アートにより想像を超えた形で再生されたことに対する驚き、島内外から来訪した 450 名の観客に対する驚きと喜びの声が多く聞かれ、また、アートベース開設に至るまでに住民が作家の制作活動を見守ったり、作家と交流する機会が各所であったことに関するエピソードも聞かれた。百島での生活に関しては、高齢化が進む離島の生活の厳しさを指摘する意見もあったが、人と人との交流が豊かであること、また島外からの移住を多くの住民は歓迎していることが語られた。その上で本事業が回を重ね、百島の住民の誇りとなり、島の活性化につながっていくことを期待する声が多数あり、そのためには住民としても協力したいという声も複数あった。百島の住民・元住民の関心を一層高めるような工夫に関する提案もあった。

なお以下のまとめは、可能なかぎり個人が特定されないように編集し、また項目ごとに整理するために会話の順序を変えている。またここでは、ヒアリング内容の記録が目的であるため、会話の内容と客観的な事実との整合性は確認していないことをお断りしておく。

年月日： 2012 年 11 月 4 日（日）

場 所： アート・ベース百島

参集者： 林百島社会福祉協議会会長ほか 約 10 名

聴取者： 中島正博、金谷信子、小山咲恵（広島市立大学国際学部生）、森本沙紀（同左）

【アートベースおよびオープニングに対する感想】

○自分はこの校舎が前古い木造の時にいて、子供がこの中学校に通っており、教室をそのまま使うのかと想像していたが、壁を抜き、体育館の入り口を体育倉庫から入るように変更するなど想像していなかったのですごくびっくりした。途中の過程を見た時はどうなるのかと思っていたが、見事になっていてびっくりした。

○68 年間島に住んでいるが、一番輝いた一日だったような気がした。島民の方も多く来て、興奮して帰られたと思う。島外からも今日 200 人ぐらい来られたらしい。この気持ちはずっと島民の間で続いて、島外からも 2 度 3 度足を踏み入れていただいて、所帯数が増えるようなことになれば、随分島の活性化になると思う。

○私は百島で生まれ 20 年くらい外へ出て、帰ってきて 20 年。こんなに賑やかなのはほんと久しぶりだった。

○今度人を呼んだときは、今回聞いた作品の説明を自分が説明しながら回ろうと思う。

○嬉しかったのは、若い人と話ができたこと。ふだんは高齢者ばかりなので、若者と話をすると若返る。若者が桟橋を歩いていただけで、わあっと思う。

○印象に残ったのは、廃油の作品。鉄の容器か箱の中に廃油が3cmぐらいしか入ってないが、すごく深い感じがする。子供が落ちると沈むのではと錯覚を起こすほど。

○廃油の作品は深く底を見るような感じで、上に写っているものが底にあるような感じで素敵だと思った。

○これまで島の作家の写真や陶芸、島に関わる小説にあまり接することがなかったので、こうした展示に本当に感心し、久しぶりに興奮した。

【アートベース開設までの作家との交流および住民側の支援】

○途中経過は見たことがある。広島市立大学の大学院生が防波堤のところで一所懸命描く姿はよく見えていて、ちょっと話もした。

○ここで大きなシャボン玉を子供たちと作った時に、先生を紹介されたが、普通な感じの先生で、普段も気さくそうな感じですごく親しみやすかった。生徒さんもスタッフの方もすごくよかった。

○家に仲間が集まり、先生とスタッフが3、4名も来られワタリガニを一緒に食べた。自分は一匹も食べられず。酒もビールも全部空になった。楽しかった。

○（交流を重ねると）応援をしたいなという気持ちにさせられる。

○（アートベース周辺の）草刈りをやってみたり、松の剪定をしてみたり、そういう陰ながらの助っ人は多少した。

○地元のバンドに参加依頼があったり、地元作家の陶芸作品の展示依頼があったり、島民一緒に参加できたことが非常にいいと思った。

【アートベースの観客の特徴】

○ほとんど大方は会ったことのない人だった。

○島外で結婚した子どもと義父母など家族が全部来た。

○百島の人と港で出会えば連れてくるが、百島に全然関係ない人は来ないだろう。芸術の分かる人はすごいと思うのかもしれないが、自分はよくわからない。芸術関係の人だけでやっていたらこんなに来なかったのでは。

○ミニ同窓会のように電話をかけ合い6～8人が一緒に来ていた年代の人もいた。

【現代アートに対する反応】

○現代アートはよく分からないが、直島に行った経験があり美術館やホテル、貸自転車、大きなフェリーの運航などを見たので、現代アートを島に持ち込むことに抵抗はなかった。

○直島を見ると現代アートで島が活性化することを期待する。経済的に潤うことも含めて。

○ただ直島は大資本が投入されていると聞いている。

【百島での生活について】

- 町から来た人にこういう所がかなり面白いのか、住んでいる者には分からない。
- 百島の良さやおもしろさを、百島の方は分かっている気がする。
- 何もなく便利さを求めないのが百島の良さと、宮本常一が言っている。
- 皆さんいいところですねと言うが、住んでみたらもう。
- 若い人には分からないかもしれないが、年取って島外の子どもと暮らすことにしても、その後帰ってくる人もいる。
- 島での生活を不安に思う島外の子供のところに行くと、町は危ないから外に出るなど言われ、家族が働きに行くと家の中で一人になる。でも島にいれば外に出れば誰か知っている人がいて喋れる。
- 以前は医者がいなくて大変だったが、最近、島に医者が来てくれて良かった。
- 本当は百島で死にたいが、そう出来ない現実もある。
- 退職後、ここが気に入って住み続けている人も何人かいる。
- 百島の住民は島外から移住してくる人をおおむね歓迎している。
- 百島にUターンしてきた人には、そうせざるを得なかった人もいる。

【その他の意見・提案】

- 百島中学校の卒業生が何千人もいると思うので、子供のころを思い出せるスペースがあってもいいかなと少し思う。メモリアルを現代アートで表現するとか。
- 体育館の向こうにある校歌(字を彫った)をどこか見えるところに持ってきてもいいかもしれない。
<複数賛同>
- 地元の人には現代芸術の表現が分からないこともある。作家の意図は分かるが、皆さんがどう思ったのか、判断はいろいろだろうから後から聞いてみるのもいいかもしれない。
- 中学校として利用していた時、周辺は草刈するのが通常だったが、アートベースとしては植物があった方がいいとも聞いた。主催者から要望があれば出来るだけ希望に沿うように対応したいが。
- (地元のバンド演奏時にノリが良い観客がいて湧いていたことについては) 結局そういう方が見に来たと思う。そういう応援の仕方ができない人は初めから来ないかも。

【アートベースに対する今後の期待】

- 一番思うのは、単年度で終わるのではなく、2回3回と継続してほしいこと。多くの事業は途中で切れてしまう。島の人口はどんどん減って来ているが、広島市立大学の美術の関係の人も来て合宿したり、作品づくりしたり、そういう風なことを希望する。
- 昔の旧校舎で育ったが、昨日と今日、久しぶりにこの校舎へ足を踏み入れた。近くにあってもなかなか足が向かなかった。これからも有効利用して島の活性化のために頑張ってもらいたい。応援もしたい。
- 耕作放棄地がこれからどういう風に蘇るのか楽しみにしている。
- ここが基本ベースになり、島内のいろんな場所が宣伝できればもっと活性化するかも。
- 回を重ねると自分の親戚に「必ず来いよ」と呼び込めると思う。

アートベース百島に対する百島住民の意識調査
(事前調査報告書)

著者：中島正博・金谷信子・高橋広雅・瀧俊毅
発行：広島市立大学国際学部地域と芸術活動研究会
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3丁目4番号
TEL： 082-830-1500 (代)

発行年月日：2013年4月25日